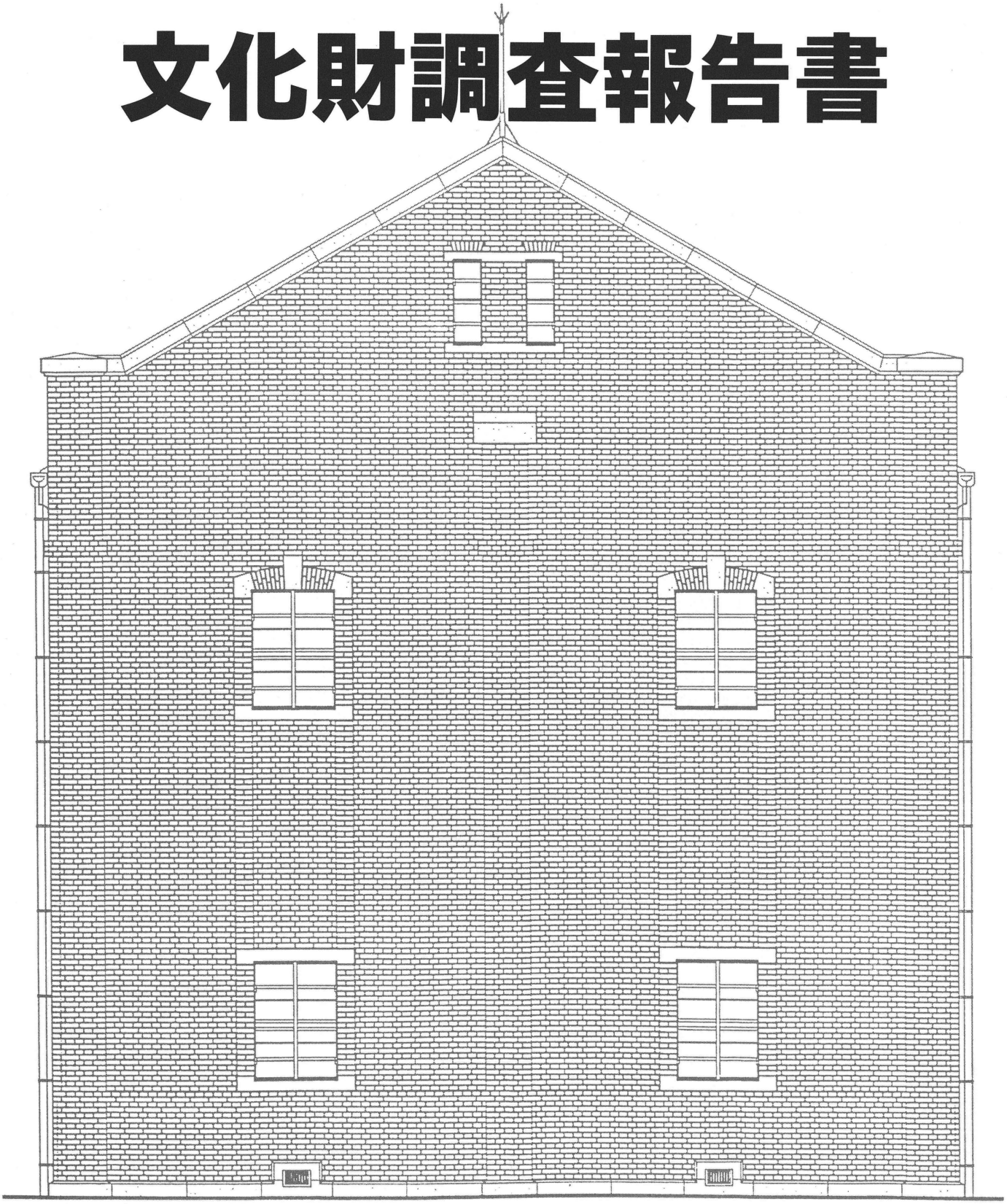
文化財調査報告書

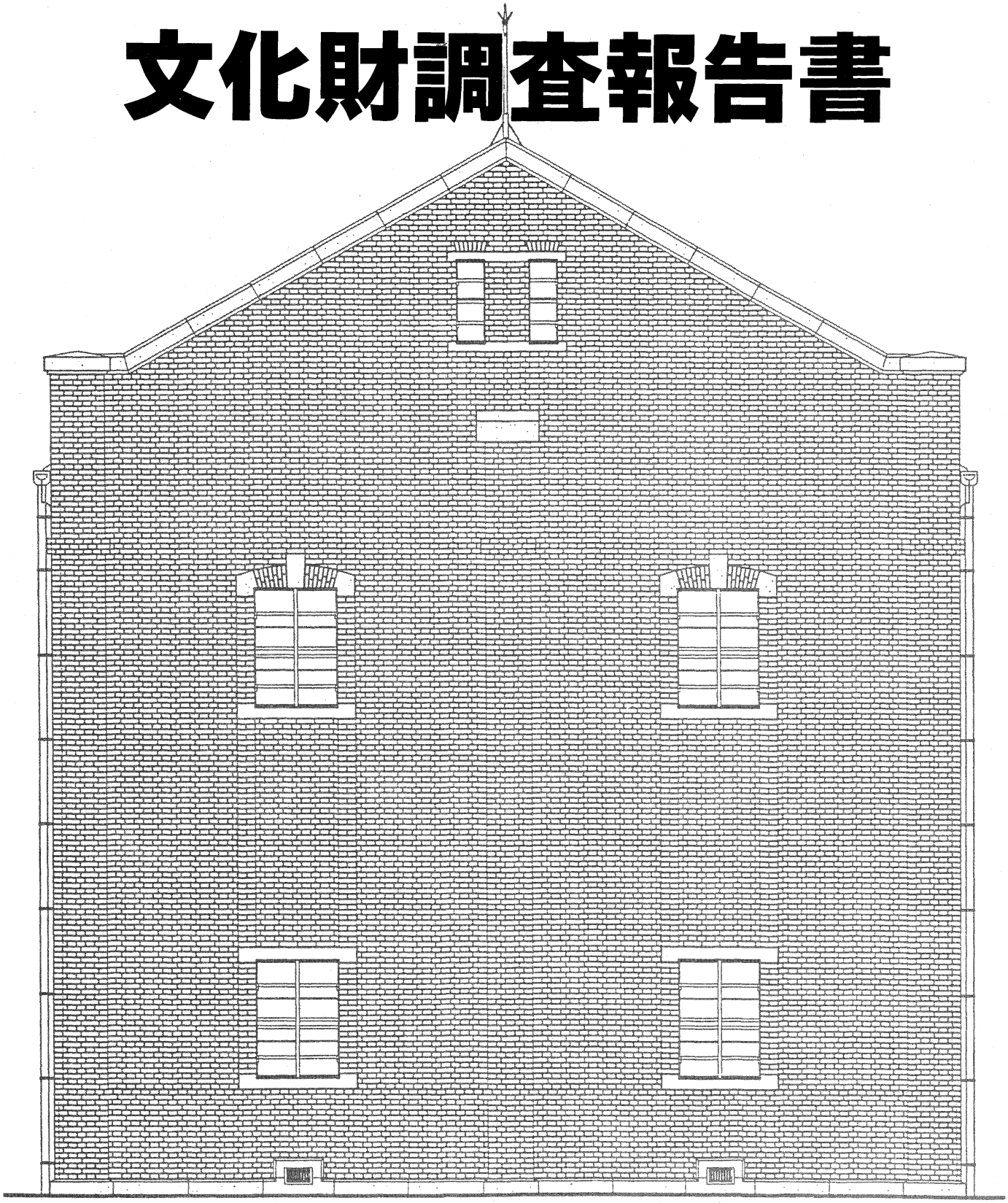


平成６年度

前橋市教育委員会

第 25 集

文化財調査報告書



平成６年度

前橋市教育委員会

第 25 集

序

前橋市民の文化性の向上のために今果たさなければならないこと。それは21世紀から先をも見通した文化の創造のための準備であろうと思います。こんな仕事が文化財保護の仕事です。文化財の活用がさかんにいわれるようになり、発掘だけでなく管理運営、普及、整備、調査事業がすすめられる中で仕事を行っております。

大室公園史跡整備では、中二子古墳の範囲確認調査が行われ、埴輪の検出など貴重な成果を得ることができました。整備委員会においても、史跡整備、民家変遷、資料館部会がそれぞれの計画の中で活動しました。

歴史散歩道整備については、案内板の設置、散歩道地図増刷など利用増進にむけた事業が行われました。元総社、総社地区での散歩道利用促進の秋元歴史まつりも第５回となりました。

普及事業としては、郷土芸能大会、文化財展、文化財普及講座、史跡めぐり講師派遣等の事業を実施しました。

調査事業では、本書に記載の文化財調査委員の調査に加え、専門家調査、建造物調査を行いました。

埋蔵文化財発掘調査では、開発に伴う試掘調査、遺跡の発掘調査と芳賀団地遺跡の報告書作成作業があげられます。内掘遺跡は第８次、大屋敷遺跡は第３次調査、中原遺跡では条里水田などの調査を実施し、貴重な遺跡の記録保存を行うことができました。中二子古墳の調査では、埴輪の検出などの成果を得ることができました。

最後に、こういった諸事業にご指導、ご協力いただけた関係各位、機関に深く感謝申し上げると共に、この文化財調査報告書第25集が文化財保護の一層の推進のために活用されることを祈念し、結びといたします。

平成７年12月

前橋市教育委員会

教育長　**岡本信正**

目　次

表紙
序文
目　次
Ⅰ　文化財調査委員による調査……1
　龍海院　文化財調査の概要……1
　　龍海院縁起ほか……2
　　文化財一覧表……3
　湯清寺・観昌寺什物目録
Ⅱ　文化財調査
　　妙安寺、七条袈裟調査……5
　　前橋商品市場建造物調査……6
Ⅲ　新指定物件紹介……11
Ⅳ　文化財保護事業
　　管理運営（共催、後援を含む）……14
　　整備……16
　　普及……18
　　調査……20
　　埋文調査……21
　　各遺跡……24
　　大室公園史跡整備……33
あとがき……35

Ⅰ　文化財調査委員による調査

●龍海院文化財調査

龍海院について

龍海院は、前橋市紅雲町二丁目に所在する曹洞宗のお寺で、山号を大珠山、寺号を是字寺といい、本尊は釈迦如来である。

言い伝えでは、徳川家康の祖父で岡崎城主の松平清康が「是」の字を左手に握った夢を見て、竜溪寺の模外椎俊和尚にその意味を尋ねたところ「この字は日下人に分けられ、これを握るという事は、戦国の分裂の世を統一する前兆である。君公により実現しなくとも孫の代までに実現する。」といわれた。

喜んだ清康は、岡崎城下に一寺を建て、模外和尚を開山とし、満珠山是字寺龍海院と名付けた。享禄３年（1530）のことである。

ところが、徳川氏には大樹寺という菩提寺があったことから、家老の酒井正親に守護を命じた。以後、龍海院は酒井氏の菩薩寺となった。

徳川家康の江戸入城に伴い、正親の子重忠は武州川越の藩主となり、龍海院は川越に移った。さらに、慶長６年（1601）重忠の前橋転封に伴い、前橋に移ってきた。

前橋では、当初岩神村（現岩神町）に建立したが、火災にあって現在地の柿ノ宮村（現紅雲町）に移ったという。その後、元禄８年（1695）前橋藩主の酒井忠挙によって大規模な造営が行われ、御霊屋、本堂、御影堂、書院、衆寮、庫裡、方丈がつくられた。

酒井氏は寛延２年（1749）九代忠恭の代に姫路に転封となったが、龍海院は前橋に留まった。

文政年間には姫路藩主の酒井忠実、忠学により大規模な伽藍再興の整備が行われ、現在の建物が建てられている。

●龍海院の文化財

本堂

木造平屋の一重入母屋桟瓦葺きで、桁行12間、梁間10間の建物。内部には桁行３間、梁間２間の内陣があり、須弥壇を設けている。

県内の寺院としては有数の規模の本堂である。

山門（中門）

３間一戸楼門で入母屋造り、桟瓦葺で東に向いている。様式は和様を基本としているが、一部に禅宗様を取り入れている。

正面南に増長天王像、北に毘沙門天像を収めている。この山門には当初回廊がめぐっていた様子が残っている。天保の頃とりはずしているが、龍海院の格式の高さを物語るものである。

御霊屋

桁行5.5間、梁間2.5間の一重入母屋造りの建物。西面と北面に位牌壇をつくって、前橋藩と伊勢崎藩の代々の藩主と奥方の位牌が安置されている。

御霊屋の渡廊下には檀家の位牌棚が並んでいる。

龍海院酒井家墓地

境内の南西に酒井氏の歴代墓地がある。初代の酒井重忠夫妻の墓をはじめ15代までの藩主の墓に奥方の墓２基、伊勢崎藩主の墓２基がある。

二代忠世と三代忠行の墓は、三河様式の墓石を使い酒井氏の権勢をしのばせる立派なものである。

四代忠清は大老を務め、世に「下馬将軍」といわれるほどで、伊達騒動の解決でも有名である。

昭和39年に前橋市指定史跡に指定されている。

下村善太郎の墓

下村善太郎は、明治の始め、前橋市の発展の基礎を築いた功労者で、初代前橋市長を務めている。

昭和49年に前橋市指定史跡に指定されている。

有栖川宮家の祈願所

中世以来、龍海院に有栖川宮家の祈願所となっていた。明治41年には有栖川宮家の寄進によって門の両側に筋塀が造られた。

良寛和尚を世に出した蔵雲和尚

蔵雲和尚は龍海院の29世の住職で、安政４年から明治元年まで12年間在住している。

蔵雲和尚がまだ龍海院の住職になる前、越後を巡っている時に良寛和尚の話を聞き、貞心尼を訪ねた。その後慶応３年に詩集「良寛道人遺稿」を出版した。これが良寛和尚を初めて世に出した本である。

酒井家史料

酒井家には、町の様子や幕臣としての政務を記した資料があり、明治になって辻善之助氏達によって酒井家史料121巻、史料目録４冊、編年史料１冊の126点に編さんされている。

龍海院に保管されていたが、現在は前橋市の所有となり、前橋市立図書館に保管されている。昭和58年に前橋市指定重要文化財に指定されている。

什宝など

別紙目録を参照されたい。

龍　海　院　什　物　目　録

カード番号	種別（名称）	材質	法量	備考
1	涅槃図	絹	横177 縦188	大島　明治35年２月　龍海院32世周道代高祖650遠忌為法恩表装張替　施主　前橋市曲輪町　大島不染（注　染之助　弁護士）江戸時代後期　18世紀の作品。
2	山水図	絹	高107.4 幅 28	花浚居に拠るとの説明がある。花浚居は中国の南画家である。作者は春木南胡。江戸時代の作品。
3	十六善神	絹	高120 幅 75	龍海院什宝　文政８乙酉夏　当院現住大澄　長昌現住全契寄付　大正10年辛酉秋　34世雄鳳改装　江戸時代の作品
4	羅漢図　二幅	紙	高173 幅 93	16羅漢図　二幅一対　作者不明　素人の作か　明治から昭和にかけての作品
5	笛吹之図	絹	高111 幅 73	養川浣法印筆　龍海院殿　昭和40年６月吉日　祝竜海院会館開館　松永脇之助
6	花鳥図	紙	高170 幅218	屏風絵　作者は前橋藩絵師森東溪　近世末の作品
7	前橋城絵図	紙	高206 幅198	昭和42年　龍海院什宝　酒井忠正殿寄贈　現状　慧安代
8	十湖翁句	紙	高127.5 幅 30	月よし、青葉若葉の、向島の句　作者は大兼十湖森下政雄寄贈四軸の内
9	変堂禅師筆跡（防火龍）	紙	高136 幅 31	龍絵に句がはいっている。龍海院36世慧安代石原努氏寄贈　作者は変堂禅師　江戸時代の作品
10	忠知公筆山門是字寺額原本	紙	高 52 幅132	是字寺山門額の原本　大珠山什寳（34世雄鳳装禎）　酒井忠知（忠恭）の筆、江戸時代の作品
11	胸中無宿物（俳句）	紙	高132 幅 33	胸中無宿物　飲む時は酒久留時はさくら閑那みき雄　明治時代の作品
12	妙法蓮華経８巻	紙	高 26.4	木箱に箱書　表　三州龍溪院輪住記録　上毛厩橋大珠峰□□　裏　安政６年末初秋　龍溪院輪住方記録入　江戸時代の作品
13	般若心経	紙	高229 幅116	龍海院什物　34世雄鳳代改装　什金井之恭筆　明治時代の作品
14	晩香山人書		高134 幅 33.5	七言絶句　獄中雑感　贈呈松沢兄　□田生　晩香作
15	酒井家御墓所御案内帳	紙		酒井氏の三河以来、前橋、谷中などの墓地略図などを記す。前橋市内では龍海院、隆興寺、養行寺、源英寺などの記載あり。大正９年１月から、昭和12年４月まで。
16	是字寺龍海院と酒井家附　前橋より姫路移封に就いての事変	紙	Ｂ５版 活版　11Ｐ	堀口禎三著　大正２年７月１日刊
17	有栖川宮殿下令旨	書籍	巻子 高 42.5 長129.5	箱書内　大正９年８月吉辰　34世雄鳳謹修装御寄付書（明治元年戊辰11月）　令旨（嘉永３年11月）龍海院什宝
18	花鳥図	紙	高104 幅 30	柳荘画　芍薬、松と雀を描く　江戸時代末の作品
19	鈴木貫太郎書	紙	高135 幅 34.5	貴為和以　鈴木貫太郎日常訓　孝子

カード番号	種別（名称）	材質	法量	備考
20	釈迦牟尼佛修理札	檜薄板	高 35.8 幅 7.6	此釈迦牟尼佛運慶作也　再興享保二丁酉歳　７月吉日但再興京佛師樽松長治郎　龍海15世此岸叟代
21	法華経全七巻	紙		奥書によると元禄５年のものを天保５年甲午再刻とある。江戸時代の作品。
22	梵網菩薩戒経一巻	紙		文政元年癸未冬十月下野州富田邑大中禅寺住持比丘犀月透明謹識とある。江戸時代の作品。
23	宝国寺綸旨授与五院公文	紙	高 40 幅 66	箱書に御綸旨とあり、宝国寺が総持寺系末であることを示す。文久４年３月５日
24	宝国寺周道和尚禅室右大辨経之	紙	高 34 幅 51	総持寺住職事　応　勅請宣奉祈　国家安全　宝祚長久者　天気如此恵之以状　元治元年３月19日 右大耀家　宝国寺周道和尚禅室
25	三牌	紙	高 54 幅 24	助縁師道場降臨請尊宿　現戒師禅龍雄鳳大和尚　同額法侶遍法界諸菩薩　受戒の時この三幅を掲げる。箱書に三牌　龍海雄鳳布調とある。昭和初期のもの。
26	摩訶般若波羅密多経	紙		天保戊戌七月丁　先府小祥忌歳月奄忽追慕無已及薫林盥嗽書寫般若心経一部因寄貯之厩橋龍海佛寺惟師先府冥福云　忠學盥手謹識
27	龍海院古文書８点	紙		34世雄鳳が大正９年８月に明治時代の永平寺からの文書８通を巻子に表装したもの。
28	雑抄	紙		添書にコノ雑抄一巻何レノ人ノ手ニ成レルカ知ラズ　ソノミル所頗博キガ如シ　今仮ニ名ケテ雑抄ト題ス　明治三十四年四月　家史編纂員　辻善之助　奥書きに昭和四十二年龍海院什宝　酒井忠正殿寄贈　現世慧安代
29	大乗院妙典　六	紙	高 9.1 幅 26.5	為永昌院殿菩提壽明院寄進とあり、永昌院である忠相の後宮安姫が寄進した経典、写経。
30	酒井伯日牌	紙		酒井家歴代藩主及子女の位牌を集成したもの。奥書に堀口周道修繕之とある。
31	是字寺龍海院建立之事	紙	高 32 幅208	題に是字寺龍海院建立之事とあり、本文書を記録した記載はないが、近世中頃に記したもので、文中に次の記載がある。松平次郎三郎広忠　元文十五年酉午年六月日　龍海院
32	酒井忠恭筆		高 31 長137	酒井重忠150回忌に際し、重忠の供養のための由来を記した文書。

湯清寺什物目録　（３年度調査）

カード番号	種別（名称）	材質	法量	備考
1	十一面観音坐像	木	高　60 総高79 幅　26 肩幅11 膝幅17	江戸時代の作品
2	六歌仙屏風			
3	普賢菩薩坐像	紙本 紺地 金泥	高　90.5 幅　36.5 像高58 全高147 全幅54	普賢延命尊　浦野王成寫　先晋

観昌寺什物目録

（３年度調査）

カード番号	種別（名称）	材質	法量	備考
1	絹本著色愛染明王坐像	絹地 金泥	高　87.5 幅　43.5 全高157 全幅57.5 像全高61 光背径41 身光径30	嘉永三年庚戌四月院家方竟代於當寺表装之御経師 當村菊地氏産　橋本覺歳
2	絹本不動明王坐像	絹地	高　98.5 幅　47.7 全高180 全幅65 像高17.5	両側に童子が立つ。右に二人。高さ24㎝ 左に一人。高さ27㎝。 両眼、活眼。剣を持つ。 不動尊圓光三童子像　願行方浄妙□山童□□ 蓮華童　矜羯羅　制吒迦　三童子外倶利迦童子有 銘也　先晋
3	紙本著色五代明王画像	紙	全高174 全幅70.5	不動明王、降三世明王、軍荼利明王　大威徳明王 金剛夜叉明王を描く。いずれも火炎光背。 胎蔵界曼荼羅の持明院五尊である。
4	紙本著色十六善神画像	紙	全高204 全幅84	天蓋の下に釈迦三尊がいる。その下に十六善神がいるという構図。
5	書跡	紙	全高211 全幅88	「光擬無」大正七　四月　大僧正賢□ 「満圓智福」大僧正精神書
6	紙本著色大黒天	紙	高　157.5 幅　84.5 全高234 全幅84.5	香正
7	絹本著色十六羅漢画像	絹地	高　151.5 幅　84.5 全高233 全幅111	絵師の作になる絵
8	紙本著色涅槃図	紙	高　186 幅　150 全高303 全幅102	明治28年２月19日
9	仏舎利塔	水晶	高　20 水晶高13	明治十二年七月三十一日早朝紙石ノ下函ヨリ件ノ舎利壱粒ヲ得之 仏舎利三十三粒　護持　明治二十三年六月置之 栄智　三十八粒　五粒分身を水晶の方へ 白い骨舎利　玉の肉舎利
10	虚空蔵菩薩	木	高　44 膝張32 全高104 肩幅20	寄せ木造りでうるし仕上げ。福島和造
11	地蔵菩薩立像	木	高　31.5 全高38.5	
12	阿弥陀菩薩坐像	木	高　61 膝幅36 全高129	本尊

II 文化財調査

妙安寺・袈裟調査

紺綾地葵紋雲模様金襴七条袈裟

１領
江戸時代・17～18世紀
縦106.0センチ　横190.5センチ

表は、条・葉に紺綾地葵紋雲模様金襴、四天、二天に紅地葵紋繻珍を用い、二天の左上部には縹丸打ち紐を付ける。

条・葉の紺綾地葵紋雲模様金襴は、経３枚綾地に金糸と白茶・薄茶・鶸色・緑・水浅葱・縹・藍の色緯を全越しに織り込み、赤の陰経で別搦に押さえる。金糸は細く、金質も良い。

四天・二天の紅地葵紋繻珍は経五枚子地に地緯で卍入り菱繋ぎ文を地文風に表し、金糸を地搦みに押さえて花文入り木爪文を上文風に表した上に、更に葵文を白糸で繡い表す。葵文は白平糸を平繡したのち、二本引き揃えの紅糸で留繡する。

裏は、経糸細く緯糸太い畝織の紅平絹。裏の右上部に、裏と同裂の平紮け紐を緑の絹撚糸で縫い留める。

「徳川家康公寄進七条袈裟」の伝承あり。

紺綾地葵紋雲模様金襴横被

１領
江戸時代・18～19世紀
縦29.5センチ　横158.0センチ

表地の条・葉・四天、裏地とも袈裟に同じ。裏の上辺中央付近と左端に、裏裂と同裂の平紮け紐を赤の絹糸で縫い付ける。

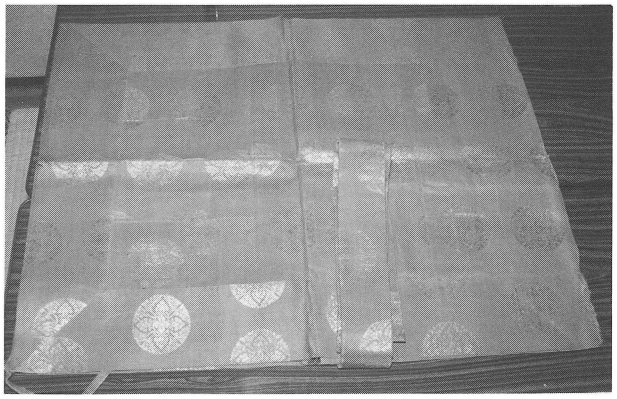
紅地八藤模様金襴袈裟
１領
江戸時代・18～19世紀
縦60.4センチ　横149.3センチ

表は経六枚綾地に金糸を緯三枚綾に地搦みに押さえ、八藤模様を織り表した金襴。条・葉・四天・二天ともこの裂を用いる。裏地は、紅地五枚繻子。

表上辺の左寄りに付けられた肩紐も、条と同裂。本体への縫いつけ部分には、ｚ撚の白絹糸７本を引き揃えて撚ったものを縫いつけて、飾り修多羅とする。裏側左右上端にも裏裂と同裂の紐を付ける。

「下間按察使より緋金紋五条白素絹着用の添状」が付属する。

七条袈裟


金襴横被

前橋商品市場建造物調査

第１章　旧安田銀行担保倉庫の歴史

旧安田銀行担保倉庫は前橋市住吉町２丁目10番１、２、３、４（旧前橋市細ケ沢町69、68、67、66番地）に所在し、現在は協同組合前橋商品市場の倉庫（乾繭、生糸等）として利用されている。

旧安田銀行担保倉庫は、株式会社群馬商業銀行の担保品付手形割引による貸付金の担保物件（主に繭、生糸）用倉庫並びに最新式繭乾燥場及び付属事務並びに一般銀行業務を行う銀行の出張所（群馬商業銀行前橋支店細ケ沢出張所）として建築され、落成開業が大正２年６月７日（1913．６．７）であり、工事は前年の大正元年（1912）より行われたものである。

このことは「前橋市固定資産台帳」記載の建築時期（戦後の聞取り調査により大正２年建築）、及び前橋地方法務局「土地閉鎖登記簿」に記載されている土地の所有権移転の時期（明治45年６月10日）、大正４年６月発行の「株式会社群馬商業銀行営業案内」による時期、明治43年９月15日群馬県協賛会前橋委員会発行の「共進会当時記念地図」の前橋案内と大正４年９月25日前橋市発行「前橋全図」との比較、及び大正２年６月７日付上毛新聞第３面の記事及び掲載広告等により裏付けることができる。

その後、群馬商業銀行は、大正５年９月20日（1916）安田銀行の傍系銀行でその創設からして安田銀行系として始まり、つねに緊密な金融的連衡の関係にあった株式会社明治商業銀行（本社―東京市日本橋区本船町19番地）と合併し、大正５年11月23日明治商業銀行への所有権移転登記が行われた。また、第一次世界大戦の終結した大正９年３月（1920）に始まったいわゆる戦後恐慌の影響により安田関係銀行22行のうち11行の大合同に伴い、大正12年８月（1923）株式会社安田銀行と合併し、大正13年３月23日商号変更登記が行われ、安田銀行前橋支店細ケ沢出張所になった。その後細ケ沢支店と改称されるが、昭和２年12月31日（1927）限りで一般銀行業務は廃止され、倉庫業務のみを行い名称も安田銀行担保倉庫となった。

この間、大正５年12月５日（1916）に、現在は富士銀行前橋家族寮として利用されている、前橋市住吉町２丁目７番3,20（旧前橋市細ケ沢町71、72）の敷地を明治商業銀行が取得し、現在の倉庫と同規模の土蔵造倉庫を建築し、現倉庫と一体で利用していたと伝聞されている。

昭和20年８月５日の前橋大空襲（アラバマ州マックスウェル空軍基地保管の記録によると723.8トンの爆弾を投下した）により、安田担保倉庫敷地の南側に在った倉庫は焼夷弾の直撃を受けて焼失し、細ケ沢町の96％の家屋が一部８戸を残して失われたが、現存する煉瓦倉庫北側の一部を焦がされたのみで、同倉庫及び事務所は奇跡的に残った。

戦後、焼失した土蔵とそれに付属した建物の取り片付けを行い、南側の敷地は空地になり、その後、前橋市戦災復興都市計画に伴う区画整理事業によって北側部分と南側部分の間に現在のように道路を設け、敷地の形も現在のように整理（区画事業による最終的な換地処分は昭和44年９月10日）された。また、安田銀行の持株会社である安田保善社（安田系事業の中枢機関で大正元年に設立された）が戦後の財閥解体令を待たずに解散し、昭和23年10月１日（1948）、株式会社安田銀行を株式会社富士銀行と改称した。

前橋市では、戦後の桑園の減反による繭の減収を補い、家庭内職の増加を図り、戦争未亡人や登録失業者等に職を与え、救済する目的で、取引所を設置し他府県より繭を輸入し生糸産業の振興を図るため、昭和25年３月23日、市議会において繊維工業振興審議会への助成金210万円が決定し、これに伴い、その前段として繭、生糸の実物を取扱う商品市場の設立が計画され、昭和26年６月19日

中小企業等協同組合法に基づく協同組合前橋商品市場が設立された。（設立にあたって、繭売買業者、座繰業者、玉糸業者、生糸商、燃糸商等261名の組合員が結集した。）その後数回に及ぶ設立準備会を経て、昭和27年５月22日、前橋市細ケ沢町66番地の前橋商品市場において前橋乾繭取引所の設立総会を行い、前橋乾繭取引所が設立され取引所の建設が決定した。

昭和27年５月前橋市細ケ沢町66番地（現在の煉瓦倉庫の北側の駐車場部分）で着工した取引所の建設工事は２ケ月後の７月10日に竣工し、煉瓦倉庫と隣合わせてその姿をあらわした。（この建物は昭和52年３月まで使用され、その後取壊された。）

昭和39年12月26日現在の土地並びに建物は売買により、株式会社富士銀行から協同組合前橋商品市場へ所有権の移転が行われた。その間部分的な補修や補強は行われたが、創建当初の姿を殆ど完全な形で保ってきた。

道路を挟んで南側の敷地は、そのまま富士銀行が所有し、その後富士銀行前橋家族寮を建築し、現在も使用されている。

なお、煉瓦倉庫内部の階段に電動式ベルトコンベアが取付けられたのは、昭和41年10月で、それまでは、２階床に荷揚げ用の穴があり滑車を用いて荷掲げが行われており、現在もその形跡を認めることができる。

また、外壁の煉瓦は、モルタルが欠落ちた部分の煉瓦を取出し、観察したところ、小判型の縁の内側に横書きで右から上敷免製の刻印があり（日本煉瓦製造会社製の煉瓦）、寸法が225×108×58であった。この煉瓦はＪＩＳ規格の煉瓦（210×100×60の寸法で大正14年に日本人向けに統一された）と比較する大版である、このことも、この建物の建築年代を示す重要な手掛りとなった。

最後に、この建物の設計者（伝フランス人）、施工者は、今回の調査で確認することができなかった。

煉瓦倉庫

概　要　煉瓦造、（床組、小屋組木造）、２階建、桟瓦葺。
桁行54.540ｍ×梁間10.908ｍ。
建築面積692.677㎡、延床面積1,179.014㎡。
南面に鉄骨製庇付。

基　礎　布石は安山岩切石で、概ねＬ910㎜×Ｈ300㎜（標準地盤面～布石上端Ｈ206㎜）を１段据える。腰壁、柱型より60㎜突き出し、その上端に５寸勾配で水切面を付ける。地業は不明である。

柱　型　柱型、腰壁、外壁ともに日本煉瓦製造会社製（裏面に上敷免製の刻印がある。寸法は、概ねＬ225㎜×Ｗ108㎜×Ｈ58㎜。）の煉瓦をイギリス積とし、目地に覆輪目地を施す。

腰　壁　煉瓦2、1／4枚積で基礎から15段積み、その上に見切りとして小口積２段で腰ボーダーを積む。ボーダーは腰壁より60㎜せり出していて柱型と同一面で納めている。ボーダー上端には５寸勾配でモルタル塗を施す。

外　壁　壁厚は、１階が煉瓦２枚積、２階は１枚半積。壁面は柱型、腰ボーダーより煉瓦半枚分（120㎜）内側に積まれている。軒天端から煉瓦15段下がった位置に３段分の巾で軒ボーダーがある。上下段が小口、中段が長手のイギリス積で、壁面から煉瓦半枚分（120㎜）せり出して積まれ、両妻面の柱型を巻き込む形で納められている。このボーダー上端も腰ボーダーと同じ方法でモルタル塗が施されている。このモルタルは建築当初のものと思われる。軒蛇腹は30㎜ずつせり出す形で積まれ1、1／8枚、1、1／4枚、1、3／8枚積が各１段、最上部に1、1／2枚積で３段が積まれている。軒蛇腹の最上段の３段分の煉瓦面は柱型と同一面となっている。

屋　根　土居葺下地桟瓦葺、勾配5.5／10、切妻屋根、棟は紐熨斗瓦４段積の上に角雁振瓦、軒先は巴径φ75㎜の万十軒瓦、桟瓦は切落坊主桟瓦、働き寸法はW261㎜×Ｌ215㎜。棟熨斗瓦１段上にφ16丸鋼製の丸環を棟両側に各々10か所埋込む。避雷針を東西妻面内側に各１か所、防火壁西側

に１か所、計３か所に設置する。

事　務　所

概　要　木造、２建建、桟瓦葺。

間口5.460㎜（３間）×奥行9.100㎜（５間）。

建築面積53.290㎡、延床面績78.133㎡。

基　礎　安山岩切石を１段据えた布基礎。

外　壁　木摺り下地モルタル塗、リシン吹付。平屋部分真壁納りの漆喰塗。２階建部分と南、北、西面にW170㎜の霧除庇を連続して付ける。

開口部　出入口；木製　両開き親子硝子扉。通用口；木製　引違い横桟入硝子戸。

窓；（事務室、２階部分）木製　分胴上げ下げ格子入硝子戸。（その他）引違い横桟入硝子戸、一部引違いアルミサッシュに付け替え。

出入口の上には着色鉄板張の庇（W500㎜、L1690㎜）を付ける。

屋　根　土居葺下地、桟瓦葺、勾配5／10、寄棟屋根。棟は熨斗瓦４段積の上に角雁振瓦をのせ、雲型一つ雲切据鬼瓦を据える。降り棟は熨斗瓦２段積の上に丸瓦をのせ、鬼瓦を据える。

土居葺は杉皮重ね葺。

壁　　真壁納り漆喰塗。事務室と、２階部分の柱と建具廻り等造作部分を油性ペイント塗、漆喰部分を合成樹脂系ペイント塗に改装している。（３帖）京壁塗。元来、建具があった部分に合板下地を作り、その面をビニールクロス貼に改装。

天　井　（事務室）合板下地油性ペイント塗。（１階その他）杉板竿縁天井。（２階）杉柾合板敷張。

建物の規模

煉瓦倉庫

桁　　行　柱型真々（X1～X11）54.540ｍ

梁　　間　柱型真々（Y1～Y3）　10.908ｍ

軒　　高　標準地盤面から敷桁上端　9.221ｍ

最高高さ　標準地盤面から妻面パラペット笠木上端

13.432ｍ

階　　高　標準地盤面から１階床面　0.780ｍ

１階床面から２階床面　4.686ｍ

面　　積　１階床面積（柱型真）　594.922㎡

２階床面積（柱型真）　594,922㎡

延　床面積　1189.844㎡

登記簿：１階床面積（180坪）

594.922㎡

２階床面積（174坪）

575.092㎡

延　床面積（354坪）

1179.014㎡

（登記簿２階床面積には階段と荷上げ口部分が含まれていない。）

事　務　所

間　　口　柱真々　5.460ｍ（＋1.820ｍ）

奥　　行　柱真々　9,100ｍ（＋1.820ｍ）

（　　）内の寸法は増築された部分。

軒　　高　標準地盤面から２階軒桁上端

6.363ｍ

最高高さ　標準地盤面から２階軒桁上端

7.948ｍ

階　　高　標準地盤面から１階床面　0.416ｍ

１階床面から２階床面　3.200ｍ

面　　積　１階床面積　53.290㎡

２階床面積　24.843㎡

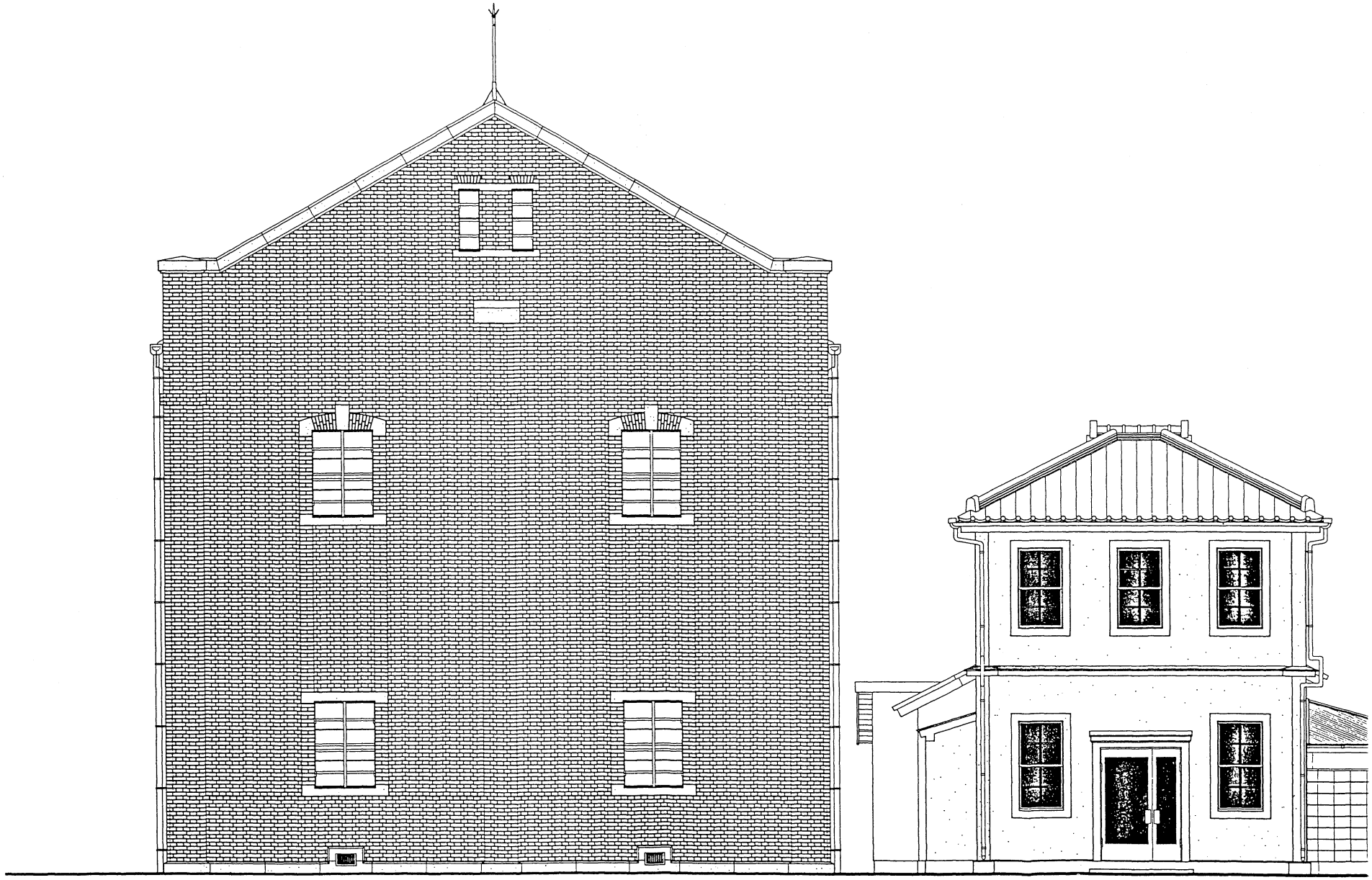
延　床面積　78.133㎡

登記

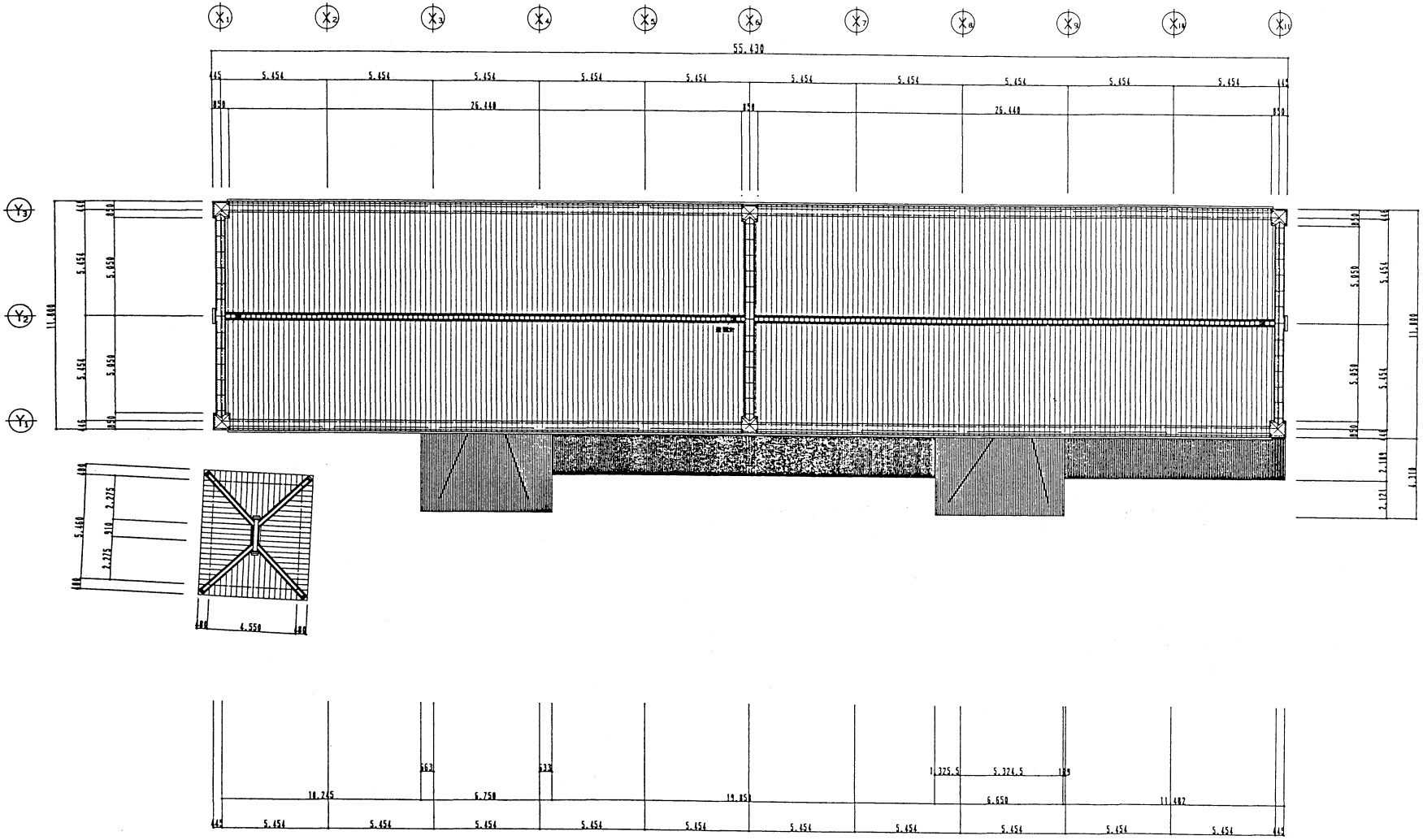
（倉庫管理事務所、外便所　12.662㎡は含まない。）

天 井 高　１階事務室　2.734ｍ

２階和室10帖　2.467ｍ



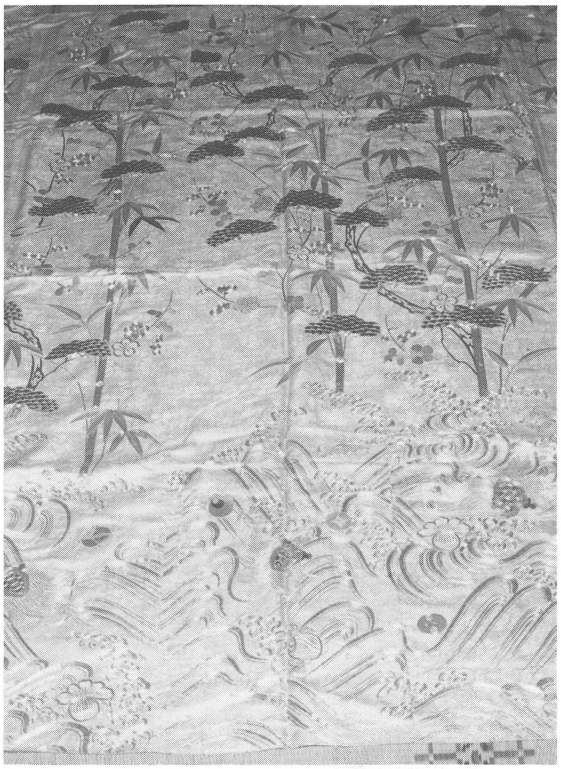
旧安田銀行担保倉庫（煉瓦倉庫及び事務所）西立面図



旧安田銀行担保倉庫（煉瓦倉庫及び事務所）屋根伏図

III　新指定物件紹介

光巌寺（こうがんじ）の打敷（うちしき）・油単（ゆたんならび）並びに幡（ばん）



・区分　　重要文化財
・記号番号　　重第68号
・指定年月日　平成７年４月20日
・所在地　　前橋市総社町総社1607　光巌寺
・所有者　　光巌寺
・管理者　　光巌寺（住職　田中耕順）
・概要

総社藩主であった秋元氏が、菩提寺である総社町の光巌寺に、法事に際し供養のために奉納した打掛、袱紗（ふくさ）、小袖などを打敷、幡に仕立てなおしたものである。このように、幡や打敷が菩提を弔うために納められた故人の衣服類によって作られることは多く見られた。

いずれも絹製品で、中国からの生地が２点ある。

打敷は、台や机の下にあてる方形の敷物で、建物内の損傷防止と装飾を兼ねて華麗な生地を使っている。光巌寺には打敷が８点あり、18世紀後半から19世紀に作成され、奉納された打掛と袱紗を寺で打敷に仕立てたものである。いずれも墨書で奉納理由と年月日が記入されている。

油単は、器物に掛けて覆いとするものの総称で、元来は防水のために単（ひとえ）の布に油をひいて作ったことから名付けられた。広げると立体形の底の部分がながく、上から被せるようになっている。近世になると、長持や唐櫃など戸外を持ち歩く調度品に掛ける覆いとしても使われた。

幡は、仏殿の内部や庭に置かれ、その場を飾るものである。材質は金属製のものもあるが、多くは錦繡（きんしゅう）が用いられる。幡は幡頭（ばんとう）幡身（ばんしん）幡足（ばんそく）からなっており、あたかも人形（ひとがた）を擬して作られたようにも見える。幡頭は三角状をした帯紐状で幡身は縦長の布で坪とよばれる区画に分けられる。幡足は長い帯状で、幡身より下がる。

幡は３点でそれぞれ２旒（りゅう）ある。18世紀に作成され奉納された藩主の能装束、小袖を寺で幡に仕立てなおしている。この幡には、1点に秋元喬房、１点に寛政２年などの墨書と秋元氏の家紋である木瓜（もっこう）がはいっている。

これらの幡は、平絹（へいけん）で仕立てられた命過幡（めいかばん）であり、供養のために作ったものである。

染織や刺繍などの技法などの工芸品としての価値が高く、秋元家よりの奉納という由来に奉納年月日が記入され製作年代がわかる点を合わせ、貴重な文化財である。

光巌寺（こうがんじ）の石幢（せきどう）

・区分　重要文化財
・記号番号　重第69号
・指定年月日　平成７年４月20日
・所在地　前橋市総社町総社1578－1
　光巌寺　墓地内
・所有者　光巌寺
・管理者　光巌寺（住職　田中耕順）
・概要

石幢の名は、仏堂内の布製の幢幡が石造物に転じて生まれたといわれる。龕部（がんぶ）が六角と八角があり、古いもので、11世紀のものがある。室町時代から普及し、六地蔵信仰と結び付き、六地蔵を彫るものが多くなり、近代まで続いている。これは、その中で、輪廻思想を表しているもので、幢身に輪廻車孔を開け、車を取り付けたものである。

利根川西部では、幢身が円柱、東部では角柱の違いがある。

光巌寺の石幢は、安山岩製で明応４年（1495）の銘があり、龕部正面に阿弥陀三尊、他の三面に各二体の地蔵を彫り出している。銘文から生前供養である逆修のために建てたことがわかる。

銘文中の旦那は、もともと、布施を意味するが、日本では仏に帰依し、寺や僧侶に施しをする人という意味で用いられた。

市内でも古い時期の石幢であり、保存状態もよい。龕部の阿弥陀三尊や六地蔵の彫刻がある点を含め、輪廻思想を表した石幢として貴重である。

・法量

高さ　69.0cm
幅　27.5cm
銘文
逆修　大旦那道忠抄□
時　明應四年乙卯　九月十四日　願主敬白

亀里町阿内宿の石幢（かめさとまち あうちしゅく せきどう）

・区分　重要文化財
・記号番号　重第70号
・指定年月日　平成７年４月20日
・所在地　前橋市亀里町1203－２
　阿内宿公民館内
・所有者　前橋市亀里町阿内宿自治会
・管理者　前橋市亀里町阿内宿自治会
・概要

石幢の名は、仏堂内の布製の幢幡が石造物に転じて生まれたといわれる。龕部（がんぶ）が六角と八角があり、古いものでは、11世紀のものがある。室町時代から普及し、六地蔵信仰と結び付き、六地蔵を彫るものが多くなり、近代まで続いている。これは、その中で、輪廻思想を表しているもので、幢身に輪廻車孔を開け、車を取り付けたものである。

利根川西部では、幢身が円柱、東部では角柱の違いがある。

亀里町阿内宿公民館内にある石幢は、安山岩製で明応７年（1498）の銘があり完全な形である。銘文から生前供養である逆修のために建てたことがわかる。

銘文中の七分全得は、次のような意味である。死者の冥福を祈る追善は、その福の七分の一を死者が受け、七分の六を供養したものが受ける。生前に自分の手で死後の法要、逆修を行えば七分全部が自分の得るところとなる。

また、善根は善を木の根にたとえたもので、根が花や果実をつけるもとであるのと同様に、善はよい果報をもたらすものであるという意味の言葉である。

市内でも古い時期の石幢であり、完形で保存状態もよい。輪廻思想を表した石幢として貴重である。

・法量
　総高　235.3cm
　高さ　63.0cm
　幅　25.4cm
・銘文
　時正七分全得逆修善根
　明應七年戊午年卯月□□

Ⅳ　文化財保護事業

1．保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するために、平成４年度において、次のような事業を実施いたしました。

(1)　国有文化財管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の関口藤太さんと堀口和四郎さんを国有文化財監視人にお願いし日常管理を実施しました。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の総社地区史跡愛存会と前橋市連合青年団の方々の協力を得て実施いたしました。

(2)　国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定のものが38件、市指定のものが101件あり合計160件の指定文化財があります。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの史跡を訪ねる人々の利便を図っております。

尚、区分については下記の通りです。

①　指定区分別文化財（７．４．20現在）

区分／種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	旧美術重要品	合計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	33	4	0	0	1	0	38
市指定	69	16	1	7	8	0	101
合　計	105	31	2	7	9	6	160

②　時代区分別文化財

指定別（件数）／時代別	国指定	県指定	市指定	合計	
				件数	割合%
天　　然	1	0	1	2	1.3
原　　始	1	0	0	1	0.6
古　　代	14	2	15	31	19.3
中　　世	3	19	30	52	32.5
近　　世	2	13	35	50	31.3
近　　代	0	3	5	8	5.0
民　　俗	0	1	15	16	10.0
合　　計	21	38	101	160	100

(3)　史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバー人材センター、業者に除草・清掃作業を委託し史跡が美しく保たれるように作業を実施しました。

実施箇所等は、下記の表の通りです。

番号	物件名	区分	所在	面積
1	亀塚山古墳	市指定史跡	山王町1-28-3	2,484㎡
2	金冠塚古墳	市指定史跡	山王町1-13-3	2,407㎡
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町818	3,000㎡
4	車橋門跡	市指定史跡	大手町2-5-3	400㎡
5	酒井家歴代墓地	市指定史跡	紅雲町2-8-15	3,800㎡
6	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町1-27-7	730㎡
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町4-9-3 他	15,081㎡
8	前二子古墳	国指定史跡	西大室町 2659 他	11,068㎡
9	中二子古墳	国指定史跡	東大室町五料 1501	16,000㎡
10	後二子古墳	国指定史跡	西大室町内堀 2616-1 他	12,283㎡
11	蛇穴山古墳	国指定史跡	総社町総社 1587-2	1,793㎡
12	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町総社1606	2,204㎡
13	女堀	国指定史跡	東大室町・二之宮町・飯土井町	16,732㎡
計				87,982㎡

(4)　文化財パトロール

市内を５地区に分け、各地区に１名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施しました。

文化財パトロールの結果は、月に１～２回程度文化財保護課に報告していただき、管理していく上での情報を伝えていただきました。そのため、緊急事態に対処することができました。

各地区の文化財保護指導員は、下記の表の通りです。

今井神社古墳

宝塔山古墳

天神山古墳

前二子古墳

地　区	氏　名	住　所	電　話
中　央	福島　守次	本町	
総社・元総社	新木一郎治	総社町総社	
広瀬・山王	関根　辰男	山王町	
芳賀・南橋	栗原　秀雄	荒牧町	
城　南	森村伊勢雄	富田町	

（平成６年４月１日現在）

(5)　前橋市蚕糸記念館の整備及び管理

この建物は明治45年国立原蚕種製造所の本館として建てられたもので、エンタシス状の玄関の角柱、レンガ積みの基礎、高い天井、大壁造、横箱目地板張など明治時代の代表的洋風建物であり、昭和56年県指定重要文化財に指定されました。

翌57年蚕糸記念館として一般公開され、ここには養蚕、製糸関係の品々が展示されており、毎年多くの入館者でにぎわっています。

蚕糸記念館

(6)　後　援・共催

秋元歴史まつり

後援、平成６年11月12日～13日

近代化遺産保存キャンペーン

後援、平成６年10月22日～11月３日

2．整備事業

(1)　歴史散歩道整備事業

平成６年度は、案内・休憩施設としての総社資料館の整備工事を始め、次の事業を実施しました。

尚、新散歩道（城南歴史散歩道）計画については、基本構想の策定に向け、現在基礎調査・事業方針等の検討を進めている段階です。

①総社資料館整備工事

散歩道の拠点となる総社資料館（案内・休憩施設、本間酒店内）については、本年度、入口部の橋、館内照明、トイレ設置等の工事を実施しました（７年度半ばに開館予定）。

「総社資料館整備状況」

②ガイドブック「総社・元総社の歴史散歩」増刷

６つのモデルコースによって、史跡文化財を紹介した小冊子を2,000部増刷しました。

③「第５回秋元歴史まつり」への協力（11月12・13日）

（今年度も各地区の文化財の紹介・史跡めぐりとともに、松島栄治先生による記念講演「元総社地区・郷土の歴史」、「元総社小誌」の発行、宝井馬琴師匠による講談「総社・秋元物語」完成披露等多彩な催しが花を添え、約3,000人の参加者で賑わいました。）

「第５回秋元歴史まつり」

年次計画

	昭62～平成５年度	平成６年度	平成７年度以降
資料館	企画・調査 敷地、建物 借上 基本構想 基本設計 実施設計	実施設計 展示設計 整備工事	整備工事 開館
案内表示	道路路面プレート等設置（85基）		文化財表示マーク等設置（74基）
散歩マップ ガイドブック	散歩マップ ガイドブック 作成・増補	ガイドブック増補	散歩マップ ガイドブック 作成・増補
推定復原図 説明板設置	図版原稿作成 説明板設置（９基）	説明板設置（３基）	
便益施設整備	用地借用	用地借用	用地借用
新散歩道計画		企画・調査	企画・調査～基本構想

(2)　二子山古墳（総社）修復工事

本年度より前橋市総社町植野にある国指定史跡二子山古墳の崩壊箇所をはじめとした遺構・保存施設の修復工事を開始しました。４カ年計画の初年次にあたる今年度は、固定度が低下し老朽化が進んでいる東西の昇り階段の修復を実施しました。階段部分及びその両脇に盛土を施すとともに段数を増やしたことにより、崩落を抑え、より容易に昇降できるよう配慮しました。

「二子山古墳（総社）修復状況」

(3)　文化財標柱、説明板、案内板等設置工事

平成６年度は、次に挙げる指定文化財・史跡の標柱等の新設、立て替えを実施しました。昨年度に引き続き標柱には御影石、説明板にはステンレス材を使用し、耐久

性を高めるよう工夫するとともに、実際に目にすることのできないものについては、写真を挿入するなどの配慮を施しました。

※標柱の新設・立て替え……５基

①市指定史跡「オブ塚古墳」

②市指定重要文化財「江木の宝塔」

③市指定重要文化財「廃覚動寺宝塔・阿弥陀三尊画像板碑」（乗明院）

④市指定重要文化財「伯牙弾琴鏡・八幡宮文書一巻九通」（八幡宮）

⑤市指定重要文化財「慈照院千手観音坐像」（慈照院）

※説明板の新設・立て替え……８基

①市指定重要文化財「鳥羽の大日如来及び笠塔婆」（鳥羽町東部公民館）

②市指定重要文化財「カロウト山古墳石棺」（中川小学校）

③市指定重要文化財「山王の宝塔」

④市指定重要文化財「大福寺の宝塔」（大福寺）

⑤市指定重要文化財「伯牙弾琴鏡・八幡宮文書一巻九通」（八幡宮）

⑥市指定重要文化財「普蔵寺供養塔」（最善寺）

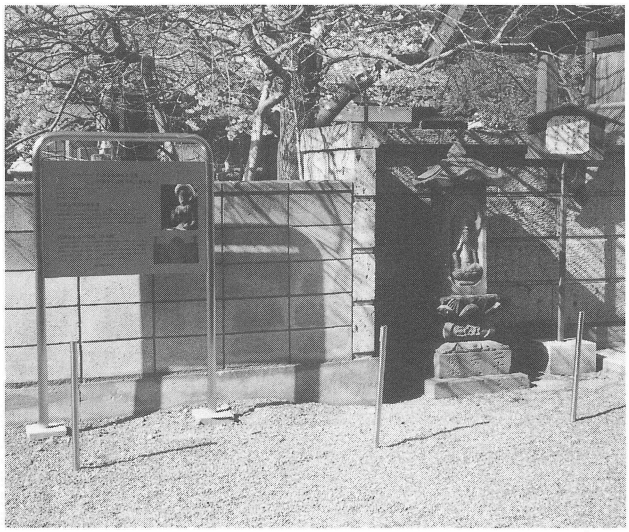
⑦市指定重要文化財「円満寺薬師如来坐像・円満寺石造阿弥陀三尊坐像」（円満寺）

⑧市指定重要無形文化財「片貝神社太々神楽」

「標柱の立て替え（オブ塚古墳）」

「説明板の新設（鳥羽の大日如来及び笠塔婆）」

「説明板の新設（円満寺薬師如来坐像・円満寺石造阿弥陀三尊坐像）」



(4)　史跡境界杭設置工事

平成６年度は、国指定史跡女堀の二之宮地区、飯土井地区の買上済地について境界位置を復元しました。

「国指定史跡女堀（二之宮地区）」

「国指定史跡女堀（飯土井地区）」

３．普及事業

(1)　第20回前橋市文化財展

・日　時　平成６年７月23日(土)～８月14日(日)

・会　場　前橋市立図書館　２階展示室

・テーマ　「仮面と人形」―人々の願いと祈り―

平成６年４月に泉沢の人形が市指定重要有形民俗文化財に指定されマスコミなどで紹介されたことから、市民の間に人形や民俗芸能に対する関心が高まりました。

そこで今年度の文化財展は、「人形と仮面」―人々の願いと祈り―をテーマに中二子古墳出土の人面付き円筒埴輪、室町時代の舞楽面である二宮赤城神社の納曽利面、下長磯操翁式三番叟人形、青い目の人形など古代から現代に至るまで、さまざまな仮面と人形を展示・紹介しました。

上毛新聞に開催前・期間中と二度にわたりとり上げられたこともあり、多くの見学者が訪れました。

(2)　文化財愛護ポスター作成

児童生徒の文化財に対する愛護の気持ちを培うために文化財愛護作品コンクール（標語と絵画）と、その最優秀作品による文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施しています。今年度は、ポスター作成の年として、昨年度実施した第６回文化財愛護作品コンクール標語の部市長賞（野上幸則・第三中３年）と絵画の部市長賞（諸田祐希・芳賀小６年）を使い、文化財愛護ポスターを作成しました。ポスターは、市内小中学校及び公民館、文化財管理者などに配布しました。

(3)中二子古墳現地説明会

・期　日　平成６年10月16日(日)

・会　場　前橋市西大室町　中二子古墳

前橋市では、すぐれた自然景観で知られる大室の地に「大室公園」の建設を進めています。

平成５・６年度の２カ年にわたり国指定史跡中二子古墳の範囲確認調査が行われ、墳丘・周堀・葺石などの様子、埴輪の形や並び方など多くの成果を収めました。

この貴重な成果を市民のみなさんに知っていただくために現地説明会を開催いたしました。

中二子古墳の成果だけでなく、前二子古墳や後二子古墳の主な成果も併せて展示会場にて紹介したこと、また天候にも恵まれたことから、県内外から約1,000名もの人が訪れ、熱心に見学しました。

(4)　第22回前橋市郷土芸能大会

・日　時　平成６年11月５日(土)
　　午後２時～午後４時30分

・会　場　前橋市民文化会館　小ホール

本年度も、市内に伝わる郷土芸能を保護・育成し、広く市民に公開することにより市民文化の向上を図ることを目的に、前橋市郷土芸能大会を開催しました。

当日、その熱演で会場を大いに沸かせた出演団体は以下の４団体です。

また、出演予定であった稲荷藤節は唄い手の体調が悪く欠演となりましたが、その公演に代え、阿久津郷土芸能連絡協議会会長より消えゆく労作唄を惜しみ、田植え唄・糸引きの唄などのスライドや音楽を交え、郷土芸能の現状についての解説がありました。

○公演及び出演団体

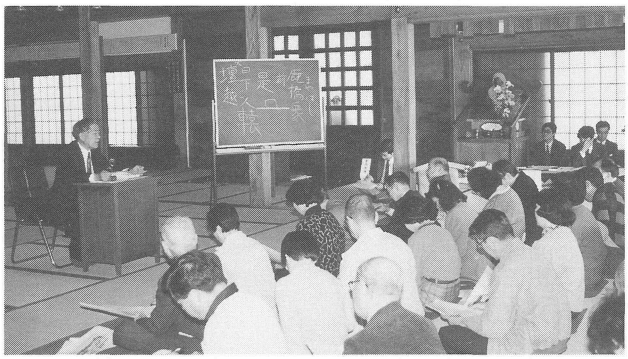
上泉獅子舞	保存会	（上泉町）
二宮赤城神社太々神楽	保存会	（二之宮町）
花和讃	和讃会	（亀里町外）
新前橋祭りばやし	保存会	（新前橋町）

(5)　第13回文化財普及講座

本年度は、前橋の歴史の中で節目となる時期の内、古代仏教文化繁栄のころ、城下町前橋の整備が行われたころ、近代前橋のあけぼののころをとり上げ「史跡から歴史を探る」をメインテーマに前橋発展のルーツに迫る講座を開催しました。

各回とも講座にゆかりの深い場所を会場とし見学と組合わせたことから、講師の先生の講話もより臨場感を増し受講者にはたいへん好評でした。開催した講座名と講師の先生などは次の通りです。

期日	テーマ	会場	講師
11／19（土）	龍海院と下馬将軍	龍海院本堂	阿久津宗二氏（前橋市文化財調査委員）
11／26（土）	臨江閣と下村善太郎	臨江閣別館	加藤　鶴男氏（前橋文学館館長）
12／3（土）	上野国分寺と国府	上野国分寺跡	津金沢吉茂氏（県・文化財保護課主幹）



(6)　文化財めぐりパンフレット作成

これまで市内を５コースに分けた文化財めぐりパンフレットを市民のみなさんに無償で配付してきました。今年度は、東地区の文化財もとり上げてほしいという地元の方々の熱い要望、また、同地区を取り上げることによりほぼ全市域の文化財を網羅できることから、新しいパンフレット作成を計画しました。

これまでの総社・元総社の文化財めぐりを「総社・清里」と「元総社・東」の２つのコースに分けました。５コースから６コースの文化財めぐりパンフレットが準備され、より多くの要望に応えられるようになりました。

(7)　史跡・文化財めぐり

本年度も、20団体1,200人以上もの史跡・文化財めぐりの依頼がありました。小学生の社会科見学（天狗岩用水、大室三二子古墳）や老人会・自治会などが主催する地域の史跡めぐりなどで前橋のすばらしさを理解していただきました。

(8)　各種講座への講師派遣

地区公民館が主催する「生涯学習」などの文化財講座や地域の歴史愛好者及び団体による研究会などに講師として依頼され、地域の文化財を紹介するなど普及活動に努めましました。

(9)　文化財防火査察

昭和24年１月26日に、奈良法隆寺の金堂壁画が焼失したことをきっかけに毎年実施されている文化財防火デーは、今年度で41回目を迎えました。

今年度は、阪神大震災の影響から総社神社で予定していた火災防御訓練は中止となりましたが、次の指定文化財所在地にて防火査察を行いました。

前橋市蚕糸記念館、旧アメリカン・ボード宣教師館、妙安寺、上野総社神社、臨江閣本館・別館、神明宮、円満寺、慈照院、無量寿寺、二宮赤城神社、小河原武吉氏宅、産泰神社、光巌寺、徳蔵寺、大徳寺、日輪寺、善勝寺、上泉郷蔵

(10)　教材開発事業

学校教育、社会教育で活用されることを目的とした歴史・文化財スライドを２カ年で作成しています。「赤城山南麓の古墳文化」（大室古墳群を中心に）をテーマとし、今年度分として前二子古墳の石室内部、中二子古墳出土の人面付き埴輪など24コマを作成しました。

(11)　文化財資料の貸出し

文化財資料の貸出しは、１年間で23件、総点数104点にも及びました。

主なものは次のとおりです。

貸出し資料	貸出し先
山王廃寺出土瓦など	茨城県立歴史館
柳久保遺跡出土縄文土器	群馬県立歴史博物館
前二子古墳出土埴輪	笠懸野岩宿文化資料館
酒井重忠画像等ポジ	川越市立博物館
毛羽取り機、繭袋など	北橘村歴史民俗資料館

(12)　上野天神山古墳出土品複製

３カ年計画の２年次として昨年度に引き続き、国重要文化財上野天神山古墳出土品の複製品５点を委託製作しました。

本年度の複製品は次のとおりです。

・素環頭太刀　１本
・直　刀　　１本
・剣　身　　３本

なお、昨年度複製された鏡や銅鏃などは、市役所ロビーなどで市民のみなさんに公開・展示いたしました。

(13)　文化財保存団体助成

市内で文化財保護・保存のために活動している次の文化財保存団体に、本年度も補助金の助成を行いました。

・総社地区史跡愛存会
・荒砥史談会
・前橋市郷土芸能連絡協議会

4．　文化財調査事業

文化財保護課では、市民からの要望にお管えして、各種文化財の調査を行ってます。平成６年度に実施した調査結果の一部を報告します。

産泰神社神楽道具調査

産泰神社で使用している鳥兜の墨書を調査しました。

干時嘉永三歳　巳戌夏五月上浣作　茂呂松清　兼

嘉永三年は幕末の西暦1850年あたります。

また、黒式尉の翁面があることから、式三番叟をやっていた可能性があります。現在の演目には入っていません。

嶺町田中家文書調査

嶺町の田中実平氏より古文書、書籍などの寄付があり、それに伴って調査を行いました。

全部で146点あり、教科書、漢籍、和歌集、社神関係資料、版本などがあります。

龍海院内位牌堂調査

紅雲町の龍海院の位牌堂内の位牌を整備したのに伴い、位牌の銘文調査を行い、配置図を作成しました。

前橋藩の酒井家十五代の藩主とその一族、また伊勢崎藩の七代の藩主とその一族の位牌、35基があります。

前橋藩松平氏関係墓地調査

前橋市内にある松平氏関係の墓地を調査しました。紅雲町の龍海院に４基、三河町の正幸寺に１基あります。

龍海院は下村善太郎の墓の南側にあります。松平典則公の子ども４人の墓です。

正幸寺は入り口右側にあります。直克公の子どもの墓です。

酒井弾正墓地銘文調査

紅雲町龍海院の酒井家歴代墓地の北側にあった酒井弾正の墓地整備に先立って、銘文などの調査を行いました。

なお、移転に伴う調査結果は、文化財調査報告書第26集で報告します。

1．顯　源姓酒井氏忠雄之墓
　敬祭酒井忠實
　延宝六戌午年酒井九助二十歳卒」十二月十四日

2．酒井弾正忠實之墓
　亡主姓源酒井忠實曽祖志摩守忠」季祖出羽忠俊父淡路忠助實為」人内剛外和潜心於正學持守踐行」事事循蹈規矩常以不背正明道義」之口字為念自壮多病而不見一日」而安享保壬寅七月晦日発於正寰」享年六十有三男子二人長傳吉早」世女六人皆早世次男正直者中根」正利臨死請養正直為継子於□忠」挙君忠挙君許可之史既成而告之」忠實忠實思君命之重更無顧吟慮怨」悔由是継嗣嗚呼天命乎家臣等」哀慟記焉

3．酒井忠實之妻」高木氏悠子之墓」嫡子正直立焉　嫡母小名無垢　酒井忠挙君」之養女高木正則之娘享保甲」辰十月十六日卒正寝享年五」十有九法名貞寿院桂林香栄」大姉　嗚呼哀哉

4．酒井傳吉之墓
　姓源　酒井忠實之嫡子享年二歳而死」元禄十三庚辰年六月十一日忘

5．酒井数馬忠豊之墓
　祭主忠實建之

6．寛文三癸卯天」蘭恵」院殿」香林栄寶大姉」六月十三日

7．酒井忠助之墓
　孝子忠實立焉
　元禄乙亥年十二月二十三日

8．寛永十一年甲戌」十二月」十七日
　徳翁有隣居士

9．□□師□西来意
　陽廣院殿　　菩提也
　為　単室俊了大姉　來
　寛永二正月五日
　酒井出羽守　老母

10．嶽操院殿　菩提也（酒井弾正忠季）
　為　壁空道鉄居士
　正保三丙戌八月廿四日
　酒井志摩守忠次

11．廣□院殿　正雲誉居士
　明暦二丙申季九月十四日

12．一條白練士
　好景院殿　菩提
　為　涼雲宗清大姉
　万治二乙亥六月十四日

13．元文二丁巳天
　心清院涼室妙凄大姉
　八月二十一日

14．本翁常本居士
　干時承應三年十月八日

15．（石製の囲柵）
　享供七年壬寅年」七月晦日

16．（灯篭）
　六月十三日」寛文三年癸卯歳

17．（灯篭）
　元禄十三庚辰年六月十一日

18．元禄十六癸未年
　國寂浄叟了清居士　覚霊
　三月八日

19．寶暦十庚辰年」六月廿七日
　圓珠院了種妙繁大姉
　圓珠院者　前橋侯之長臣」沼田泰格之妻小河原敦正」之女也享保庚戌二月六日」生一丁奥州自川城内寛保辛」酉之歳従　侯家移封到播」州姫路　延享四丁卯元寂嫁（以下略）

20．北山南如居士
　原田九郎兵衛章甫之墓
　享保二十一年丙辰十二月二十三日

21．（灯篭）
　進献
　干時享保二十乙卯年」六月日」林半兵衛

22．（灯篭）
　銘文なし

5．　埋蔵文化財発掘調査事業

本年度の調査をふりかえって

今年度は例年になく試掘が多い年であった。平成５年度末から急速に増え、途切れる事なく今年度に入り、そのまま１年間続いた。最終的に、５年度の約２倍の38件に達した。公共開発、民間開発半々で、その内容は、民間は相続関係からマンション建設まで多岐にわたり、公共では学校用地造成と道路建設が多かった。調査場所は市境界に近い周辺地域が多く、特に市西部が目立つ。

東（あずま）地区から下川地区辺りは水田址の多いところと言われているが、今年度の調査でも数件検出されている。東地区では県道前橋長瀞線を境にして東よりも西に検出例が多い。

全試掘件数に対して遺構検出件数は約40％であった。遺構が検出された場所の開発者に対しては、極力計画変更等を要望した結果、半数については計画変更、保存協議が成立している。やむを得ず掘削を受けることになった場所については、年度中に２件発掘調査を実施した。

発掘調査は14件実施した。次にその概要を述べる。

大室公園造成地内では、史跡整備に伴って中二子古墳の範囲確認調査を行った。平成５年度からの２年続きの調査であった。また、公園の施設造成部分の発掘調査も併せて行った。

総社町の区画整理に伴って実施した大屋敷遺跡の発掘調査では、県内２例目という竈用石材の切り出し場の跡が検出された。

工業団地造成のための上増田町中原遺跡では、９世紀の条里水田が確認された。民間の調査会社とともに６万平方メートルを調査した。

その他、小学校のプール、市営住宅、専門学校、店舗等の建設に伴う発掘調査も合わせて９件実施した。

整理事業としては、芳賀団地遺跡群（昭和48年～55年度発掘調査）が挙げられるが、今年度実施した各発掘調査についても、現地調査の後、引き続き整理作業を実施した。

なお、水道管布設など通常の発掘調査が困難なものについては立会調査（４件）で対応し、これらを含めると平成６年度は77件の埋蔵文化財調査を実施したことになる。

中原遺跡　現地説明会

大屋敷遺跡　現地説明会

平成６年度発掘調査一覧表

番号	遺　跡　名	遺跡コード	地　番	調査面積㎡	調査原因	調査年月日	備　考
1	中二子古墳		西大室町2626－4外	1,457	史跡整備	6.6.6～11.15	範囲確認調査
2	内掘遺跡群	6E11	西大室町2539	1,200	公園建設	6.4.25～7.29	
3	大屋敷遺跡	6A60	総社町総社1881－1外	2,702	区画整理	6.4.25～10.31	区画整理組合
4	中原遺跡群（Ⅳ）	7F3	上増田町470外	20,000	工業団地造成	6.5.10～11.8	前橋工業団地造成組合
5	中原遺跡群（Ⅴ）	7F3	上増田町900外	40,000	工業団地造成	6.4.28～7.3.24	前橋工業団地造成組合
6	荒砥青柳Ⅱ遺跡	6E31	二之宮町1789外	900	プール建設	6.7.13～8.31	教育委員会総務課
7	柳橋遺跡	6A68	川曲町字柳橋153－１外	2,000	校舎建設	6.4.20～6.8	民間
8	五反田Ⅱ遺跡	6A11	箱田町992－１	1,400	店舗建設	6.11.10～12.6	民間
9	前田Ⅲ遺跡	6G7	東善町122外	200	事務所増築	7.2.23～28	民間
10	堀之下女堀遺跡	6D8	堀之下町320外	489	水道管布設	6.7.27	水道局工務課
11	蒼海城Ⅰ遺跡	6A71	元総社町2681－6地先	494	水道管布設	6.8.1～12.12	水道局工務課
12	元景寺経塚遺跡	6A70	総社町総社1443地先	130	下水道建設	6.7.29～8.17	下水道建設課
13	桂萱58号墳	6D9	荻窪町963	10	道路改修	6.11.14～16	農村整備課
14	鶴巻遺跡	6G9	広瀬町2－14－1外	2,625	市営住宅建設	7.1.30	住宅課

平成６年度試掘調査一覧表

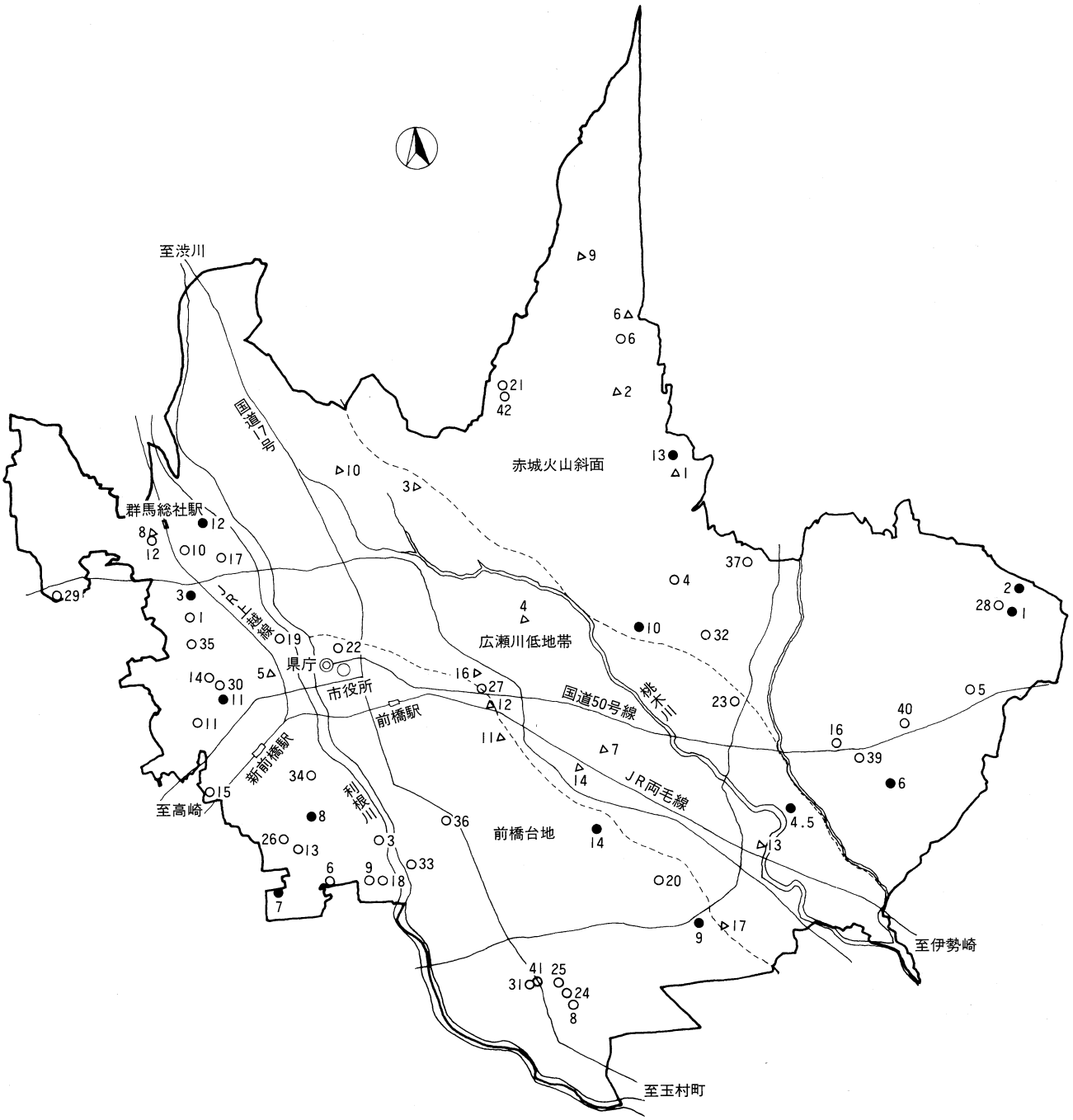
番号	地　　番	開発面積㎡	調　査　原　因	調査年月日	結　果	備　　考
1	総社町総社2871	807	アパート建設	6.4.7	有	民間　保存協議　基礎掘削時立会
2	二之宮町地内	1,200	プール建設	6.4.12	有	教委総務課（荒砥青柳躯遺跡）発掘調査（６）
3	上新田町地内	150	校舎増築	6.4.21	無	教委総務課（新田小）
4	堤町地内	250	校舎増築	6.4.21	無	教委総務課（桂萱東小）
5	西大室町地内	4,900	道路改良	6.5.10	無	土木課
6	小坂子町1917－1外	6,530	老人ホーム建設	6.4.14	無	民間
7	箱田町字五反田992－1外	2,569	店舗建設	6.4.27	有	民間（五反田躯遺跡）発掘調査（８）
8	鶴光路町382外	3,363	道路改良	6.5.18	有	街路課（西田遺踊）24号南隣発掘調査予定
9	下新田町字新畑427－5外	2,886	宅地造成	6.5.25	無	民間
10	総社町総社地内	2,500	道路建設	6.6.9・10	無	教委総務課（六中）
11	元総社町字早道792外	2,321	相続	6.6.16・17	有	民間　保存協議
12	高井町1－22－4外	2,505	宅地造成	6.6.21	無	民間
13	箱田町字林1397－1	1,018	宅地造成	6.7.14	無	民間
14	元総社町・総社町地内	1,038	土地区画整理	6.7.1	無	区画整理第一課
15	江田町353－1外	2,644	工場・事務所建設	6.7.19	無	民間
16	二之宮町地内	3,373	道路建設	6.7.28	無	教委生涯学習課
17	総社町総社1373	588	自治会施設建設	6.8.3	有	民間（遠見山古墳周掘）保存協議
18	下新田町字下538外	2,942	宅地造成	6.8.17	無	民間
19	大渡町1－6－2外	165	相続	6.8.19	有	民間　保存協議（市による買上げ）
20	山王町79－1	1,231	洗車場建設	6.8.31	有	民間（文珠山古墳周掘）計画変更
21	勝沢町地内	180,000	県営圃場整備	6.9.12・28	有	前土改（西曲輪遺跡）
22	大手町3－7－1	393	事務所建設	6.9.14	無	民間
23	富田町地内	1,905	農業構造改善	6.12.6	有	農村整備課（本舟遺跡）保存協議
24	鶴光路町268外	4,412	道路改良	6.12.8	有	街路課（西田遺跡）８号北隣発掘調査予定
25	房丸町121外	3,570	道路改良	6.12.13	無	街路課
26	前箱田町281外	3,650	道路改良	6.12.15	有	街路課（稲荷遺跡）発掘調査予定
27	朝日町4－22	5,381	消防庁舎建設	6.12.20	無	消防本部総務課
28	西大室町地内	11,500	公園整備	7.1.10・11	有	公園緑地課（内掘遺跡群）発掘調査予定
29	青梨子町字丑池1657外	7,958	福祉施設建設	7.2.1	無	民間
30	元総社町2578－88	2,068	福祉施設建設	7.2.9	有	社会福祉課（屋敷躯遺跡）発掘調査予定
31	鶴光路・亀里町地内	1,200	道路改修	7.2.16	無	土木課
32	江木町76	2,700	店舗建設	7.2.7	無	民間
33	櫛島町162－1外	1,867	ガソリンスタンド建設	7.2.22	有	民間（尼ケ橋遺跡）計画変更
34	小相木町392－3	1,280	マンション建設	7.2.20	無	民間
35	総社町総社地内	6,790	教育施設造成	7.3.9・10	無	教委総務課（元総社中）
36	上佐鳥町460	2,333	校舎建設	7.3.16	無	工業短大
37	富田町地内	296	道路改良	6.10.17	無	農村整備課　非補助金
38	稲荷新田町字村東421－1外	1,689	宅地造成	6.10.27	無	民間　非補助金

平成６年度表面調査一覧表

番号	地　　番	開発面積㎡	調　査　原　因	調査年月日	調査結果	備　　考
1	荻窪町地内	1,600	農道整備	6.4.7	有	農村整備課
2	小坂子町地内	350,000	土地改良	6.4.7	無	農村整備課
3	上細井町地内	70,000	学校用地造成	6.4.8	無	教育委員会総務課
4	西片貝町1－200－1	1,869	ドライブイン建設	6.4.19	無	
5	大友町2－12－12外	1,504	宅地造成	6.6.14	無	掘削時立会
6	小坂子町字塩苅2319－18	1,846	宅地造成	6.6.20	無	
7	野中町435－3外	2,287	工場建設	6.6.22	無	
8	高井町1－21－11外	683	店舗建設	6.7.19	無	
9	嶺町字帯松1365－5	1,619	幼稚園建設	6.9.2	無	
10	青柳町字宿前474－20外	2,227	店舗建設	6.9.20	無	
11	文京町4－1698－1外	849	店舗建設	6.9.20	無	
12	朝日町1464－1外	2,177	宅地造成	6.12.14	無	
13	小屋原町1098－1外	15,130	専門学校建設	6.12.22	無	
14	天川大島町高島1395－2	3,793	工場建設	6.12.26	無	
15	青梨子町字丑池1657外	7,958	福祉施設建設	6.12.26	有	一部試掘削調査（29）
16	西片貝町4－8－3外	1,230	宅地造成	7.2.21	無	
17	駒形町字善心塚201	1,978	宅地造成	7.3.8	無	
39	二之宮町地内	（立会）	水道管布設	6.12.5	無	水道局工務課
40	二之宮町地内	（立会）	水道管布設	7.2.9	無	水道局給水課
41	鶴光路・亀里町地内	（立会）	排水溝布設	7.3.17	無	土木課
42	勝沢町地内	（立会）	県営圃場整備	7.3.6～23	無	県教委と合同で実施

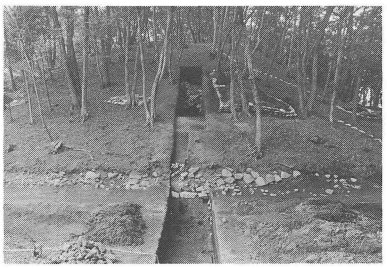
平成６年度埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報　告　書　名	遺　跡　名	発　行　者	調査年月日	備　　考
1	内堀遺跡群遺	内堀遺跡群下縄引Ⅱ遺跡	前橋市教育委員会	7.3.31	本年度調査
2	中二子古墳	中二子古墳	前橋市教育委員会	7.3.31	本年度調査
3	市内遺跡発掘調査報告書	西田遺跡、稲荷遺跡外	前橋市教育委員会	7.3.30	本年度調査
4	柳橋遺跡	柳橋遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	7.3.24	本年度調査
5	大屋敷遺跡Ⅲ	大屋敷遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	7.3.24	本年度調査
6	荒砥青柳Ⅱ遺跡	荒砥青柳Ⅱ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	7.3.31	本年度調査
7	中原遺跡群Ⅳ	中原遺跡群	埋蔵文化財発掘調査団	6.9.30	本年度調査
8	五反田Ⅱ遺跡	五反田Ⅱ遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	7.3.24	本年度調査



至渋川
国道17号
赤城火山斜面
群馬総社駅
JR上越線
県庁
市役所
広瀬川低地帯
国道50号線
桃木川
前橋駅
新前橋駅
利根川
JR両毛線
至高崎
前橋台地
至伊勢崎
至玉村町

1．中二子古墳



事業名　大室公園史跡整備事業
所在地　前橋市西大室町2627－4ほか
調査期間　６年６月６日～６年11月25日
担当者　前原　豊・戸所慎策
調査面積　1,456.5㎡（範囲確認調査）

調査の経緯　本市では、大室３二子古墳が所在する大室地区に36.9haの総合公園建設を計画した。公園用地内には史跡が存在するため、史跡整備が不可欠となり、史跡整備委員会が組織され、『史跡整備基本構想』が策定された。今回の範囲確認調査はこの構想に基づき、史跡の保護・活用・研究面の資料を収集し、史跡整備の基礎資料を得ることを目的としている。なお、調査は平成３年度に後二子古墳から開始された。平成４年度に前二子古墳、平成５・６年度の２カ年にわたって中二子古墳を実施した。

立地　市の東端、赤城山南麓の丘陵性台地に位置し、北に粕川村、東に赤堀町が隣接する。公園内には、大室３二子古墳をはじめ、豪族館跡である梅木遺跡等多数存在する。近接する多田山丘陵には有名な赤堀茶臼山古墳が存在する。

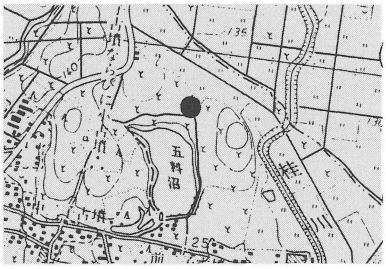
調査成果　墳丘の周囲にくぼみ、外堀、中堤、内堀、渡り状施設を持つ２段築成の前方後円墳であることが確認できた。ややバ蹄形の周囲施設に囲まれた墳丘は、主軸を西東（Ｎ－89°－Ｅ）に持ち、中堤の内外縁、下段平坦面、墳頂部に埴輪列を有する。その数は3000本と推定される。古墳の大きさは外堀で計測した場合、全長169.8ｍ、全幅137.8ｍであり、面積21000㎡を計る。墳丘で計測した場合は、全長111.0ｍ、前方部最大幅78.8ｍ、後円部最大径65.8ｍ、全高14.8ｍである。墳丘構造は、下段は地山削り出しの上に盛土がなされ葺石によって造られ、上段は盛土と葺石によって構成される。また、中堤にも盛土がなされ、北側半分では葺石が施工されることが判明した。

中堤の南側半分には古墳を警護する盾持人物埴輪が密に配置され、後円部南側の中堤部分に形象埴輪と須恵器がまとまって樹立されていたことが判明した。

埴輪には、人面が付けられた特殊な円筒埴輪も出土した。また、出土埴輪の３割強に結晶片岩と海綿骨針化石が含まれていた。この含有物を含む埴輪は藤岡方面で製作されたことが考えられる。

古墳の築造時期は、６世紀初頭に降下した火山灰層の上に造られることや出土した土器類から６世紀前半と推定される。

2．内堀遺跡群（下縄引Ⅱ遺跡）



事業名　大室公園整備事業（公園緑地課）
所在地　前橋市西大室町2539
調査期間　６年４月25日～６年７月29日
担当者　前原　豊・戸所慎策
調査面積　1200㎡

調査の経緯　公園整備事業に先立ち、公園予定地内の埋蔵文化財を調査し公園設計の基礎資料と記録保存を目的とし、公園緑地課より依頼があり発掘調査に至った。昭和62年度に始まり、今年度で８年目になる。

立地　前橋市の東端、赤城山南麓の丘陵地に位置し、北に粕川村、東に赤堀町が隣接する。周辺には大室３二子古墳をはじめ、上縄引遺跡、梅木遺跡、赤堀茶臼山古墳などがある。

旧石器時代　検出されず。

縄文時代　住居址１軒と土坑１基を検出した。住居址は縄文時代前期（諸磯ａ）のものであり、床下土坑の上に貼床がある。土坑は住居址のほぼ中央にあり、有機的な関連を有すると考えられる。このほかに、縄文時代早期から後期までの遺物をわずかながら出土した。

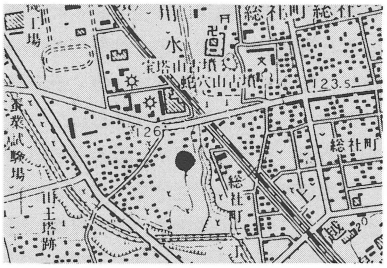
弥生・古墳時代　弥生～古墳時代初頭の住居址５軒、古墳時代中期の住居址２軒、後期の住居址３軒を検出した。弥生～古墳時代初頭の住居は前年度までの調査と合わせると104軒を数える。遺物は、赤井戸式・樽式系土器を主体とし、石田川式土器は少ない。

古墳時代中期の住居は前年度までの調査と合わせると５軒になる。

古墳時代後期の住居は３軒を数え、合計で11軒となった。１軒は北壁に竈を造っている。３軒の住居は５世紀末から６世紀中葉にかけてのものであるため、前二子古墳や中二子古墳の築造時期と重複をみせる。

中世　中世の溝が１条検出された。これは平成５年度に調査した環濠に接続するものである。今回の調査で東端が確定したので、環濠の平面形は台形をなし、東西約108ｍ、南北約45ｍであることが判明した。この環濠は自立農民層の館跡と推定され、既出資料から14世紀の所産と考えられる。このほかに溝１条を検出した。

3．大屋敷遺跡Ⅲ



事業名　前橋市大屋敷地区土地区画整理事業（施工者　前橋市大屋敷地区土地区画整理組合）
所在地　前橋市総社町総社1881－1ほか
調査期間　６年４月25日～10月31日
担当者　大山知久・坂口好孝
調査面積　2,702㎡

調査の経緯　平成４年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、第３年次を迎えた。

立地　前橋市街地の北西約３㎞に位置する。榛名山東南麓に広がる相馬ケ原扇状地の端の前橋台地の縁辺である。本遺跡地は、西から南を八幡川、東を天狗岩用水に囲まれた台地に立地し、総社古墳群の南側、推定国府域の北側、山王廃寺の東側にあたる。

縄文時代　遺物包含層より、縄文時代中期の土器、石器を検出した。土器は加曽利Ｅ式土器が中心を成す。

弥生時代　なし。

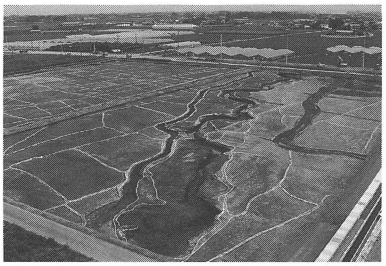
古墳時代　古墳時代後半の住居址31軒、溝址２条を検出した。溝址の縁からは住居址の竈の袖部等を築く際に用いられる凝灰岩質層の石材を古墳時代後半～平安時代まで切り出した跡（竈構築材採掘坑）が多数検出された。ここから切り出されたと考えられる切石を用いた竈を持つ住居址も検出された。また、この溝址には、堰状遺構とも考えられるピット列も検出された。６世紀前半の土坑群及びその周囲の住居址からは石製模造品（勾玉・剣形品・臼玉等）が多数出土した。

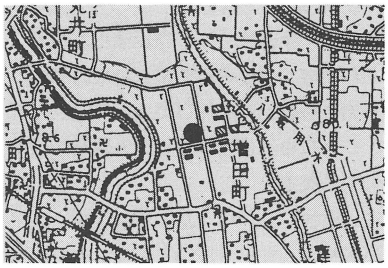
奈良・平安時代　住居址26軒を検出。住居址からは、土師器・須恵器の坏・椀・甕・羽釜等のほかに山王廃寺系の瓦も出土した。また、竈構築材採掘坑の切石を竈に有する住居址も検出された。

中世　溝址２条を検出。溝底からは内耳鍋、カワラケ、石臼等が出土した。平成５年度に調査された溝と接続することが考えられ、環濠の存在が指摘できる。

その他　幅６ｍの道路部分の調査のため、出土遺物が少なく時期不明の遺構も検出された。その数は、住居址６軒、溝址１条、土坑１基である。また、本遺跡地は、古墳時代後期から平安時代までの住居址が複雑に重複して検出され、合計で103軒におよんだ。

4．中原遺跡群Ⅳ





事業名　上増田工業団地造成事業（前橋市工業団地造成組合）
所在地　前橋市上増田町・笂井町・今井町地内
調査期間　平成６年５月10日～11月８日
担当者　関口　孝・新井真典
調査面積　20,000㎡

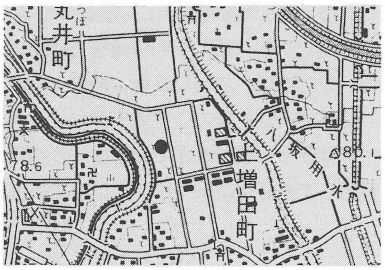
調査の経緯　平成４年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、今年で３年目を迎えた。本年度は造成地の南部約20,000㎡を調査した。

立地　中原遺跡群は、前橋市街地の南東約８㎞に位置し、北に赤城山を望み、桃の木と荒砥川に挟まれた旧利根川の河床にあたる広瀬川低地帯から左岸への移行部に立地している。標高は約80m前後で南へ緩やかに傾斜をしている。

古墳時代　住居址10軒、土坑１基、溝址８条、柱穴６基を検出した。遺物は古墳時代後期の甕、坏、坩、甑などが出土している。

平安時代　水田址161枚、川址1条、溝址１条を検出した。これらの遺構は、818年の大地震に起因すると思われる厚さ約40㎝の軽石質の洪水層に覆われている。水田は北西から南東方向に流れる自然河川１条と水田に配水する目的で作られたと思われる水路１条を伴う。また水田の区画の基準になったと思われる東西走向の大畦畔１本と南北走向の大畦畔１本が検出され、この２つの大畦畔は調査区のほぼ中央で直交する。本年度検出されたこの２つの大畦畔と平成４年度からの調査により中原遺跡群に点在することが明らかになっている大畦畔を結んでみると、東西・南北がそれぞれ約109ｍの大きな方形区画が碁盤の目のように整然と並んでいることが明らかになった。さらに、この方形区画の内部の土地区画は東西・南北走向の小畦畔によって整然と区画されており、東西約21ｍ、南北約54ｍの長方形を東西に５つ、南北に２つ並べた10の小区画からなることが判明した。以上のことから、本遺跡群で検出された水田址は半折型の条里制水田であることが明らかになった。条里制水田がこのように完全な姿で検出された例は、群馬県内でもまれである。

5．中原遺跡群Ⅴ



事業名　上増田工業団地造成事業（前橋工業団地造戦組合）
所 在 地　前橋市上増田町955番地外
調査期間　平成６年４月28日～平成７年３月24日
担 当 者　園部守央（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　41,600㎡

調査の経緯　平成４年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、中原遺跡群Ⅰ・Ⅳ（調査団直営」、同Ⅱ・Ⅲ（民間委託）に続き、同Ⅴを前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもとに、スナガ環境測設株式会社が実施した。

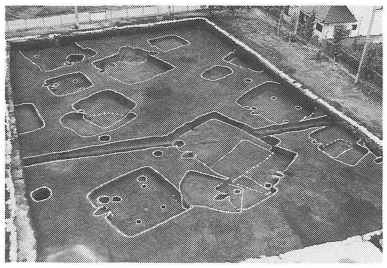
立地　官庁街より東南東約8㎞に位置し東に荒砥川、西に桃ノ木川が南流する堤内地にあり、旧利根川流路の広瀬川低地帯にある。北に赤城山南麓が広がり標高80ｍ前後で南に緩やかに傾斜する地形である。

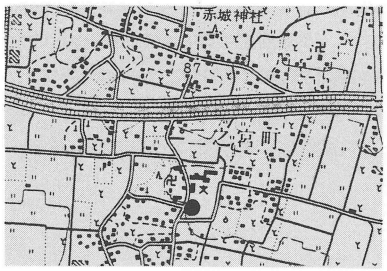
古墳時代　住居址は60軒が検出され、８軒が遺構確認トレンチより検出された。カマドを東向きに持つものが５軒、西向きに持つものが１軒、カマド不明や炉址だけのもの４軒などを検出した。覆土にはHr－FA層がレンズ状に堆積したものや灰・炭化物を含むものなどがある。また床面に白色粘土を貼った住居址やカマドに黄色粘土・石などの使用も見られた。遺物は須恵器坏や蓋、土師器甕・壺・坏・石製模造品の刀子・剣・勾玉・臼玉など古墳時代中期～後期までのものが検出された。

奈良・平安時代　住居址16軒、水田址243面、溝址８条を検出した。水田は818年の大地震に起因すると思われる洪水堆積物で覆われていて、畦畔・水口・足跡や水田に伴う溝、陥没した水田面・大畦畔など検出された。また大畦畔は、東西・南北方面に約109ｍの坪境をなす畦畔と思われる。住居址は、第１面調査で７軒、遺構確認トレンチで９軒検出した。北向きのカマド１軒を除いて、東向きに作られ、２基を有するものもある。また重複した住居址なども検出した。遺物は水田面から土師器片等が検出され、住居址から土師器坏・甕・須恵器高台付埦・坏・甕・蓋などを検出した。

中・近世　平安時代の水田面を掘り込んでいる土坑群や、井戸址３基・溝址などを検出した。これらの遺構は、洪水堆積砂層より上層から掘り込みが見られ、暗褐色砂質土で埋まっていた。遺物は土師器・須恵器片や古銭などを検出した。他に畝状遺構や溜池状遺構なども検出されている。

6．荒砥青柳Ⅱ遺跡





事業名　公共開発（学校用プール建設）
所在地　前橋市二之宮町1789番地他
調査期間　平成６年７月13日～８月31日
担当者　狩野吉弘・井野誠一
調査面積　900㎡

調査の経緯　上記事業に先立ち、平成６年４月12日、二之宮小学校内のプール建設予定地の確認調査を実施したところ、住居址等が密集する遺跡地であることが確認された。協議の結果、開発事業の公共性に鑑み現状保存が困難であることから、発掘調査を実施し埋蔵文化財の記録保存をはかることとなった。その後、平成６年６月21日付で、発掘調査の依頼が事業課の市教育委員会総務課より提出され、６月28日付で発掘調査の委託契約を締結し、調査実施の運びとなった。

立地　本遺跡は前橋市街地から東方へ約９㎞ほど離れた二之宮町の二之宮小学校内に所在する。赤城山の山容をほぼ真北に一望する本遺跡地周辺は、広瀬川低地帯と接する赤城山南麓の末端部にあたり、山麓に源を発する中小の河川や微高地の間を緩やかに南流している。本遺跡地の乗る台地上では民家が密集し、おもに畑作が営まれているのに対して、小河川の流域に形成された狭小な平野ではおもに水田が営まれている。

縄文時代　古墳時代の住居址と一部重複する形で、縄文土坑１基を検出した。

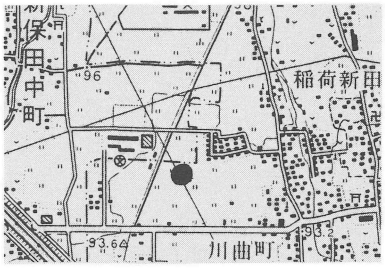
遺物は、縄文前期の諸磯ｂを主体に土器９点、石器（削器）１点を遺構の底面より出土している。

古墳時代　古墳時代後期（６世紀後半～７世紀後半）に位置づけられる竪穴住居12軒を検出した。各住居とも遺物量は豊富で、床面付近を中心に完形品が多数出土した。本遺跡中最多の遺物量を記録したＨ－10号住居址では、竈の構築材として７個の土師器甕を使用していた。

奈良・平安時代　８世紀後半に位置づけられる竪穴住居３軒を検出した。遺構の東半分が調査区外に伸びる１軒の住居を除き、いずれも、住居の東壁に外竈を付設する形態である。

中・近世　井戸址１基と溝址１基、土坑３基を検出した。井戸址と溝址からは陶磁器の断片等が出土している。

7．柳橋遺跡



事業名　民間開発（専門学校の新築）
所在地　前橋市川曲町字柳橋153番地
調査期間　平成６年４月20日～６月８日
担当者　狩野吉弘・伊藤　良
調査面積　2,000㎡

調査の経緯　平成５年11月、学校法人昌賢学園より上記事業に伴う埋蔵文化財確認調査依頼が提出され、同年12月の確認調査の結果、平安時代の水田址が確認されたため、協議の結果、校舎および道路建設予定地を対象とした発掘調査を実施することが決定した。

立地　柳橋遺跡は県庁から直線距離で約４㎞ほど離れた前橋市の南西端に位置している。遺跡地の西側には、県立中央高校が隣接し、この付近は高崎市との市境界線が複雑に入り組んでいる。

この地域は地形的には前橋台地上にあり、本遺跡の東方500ｍには滝川が、西方600ｍには染谷川が、それぞれ南流している。

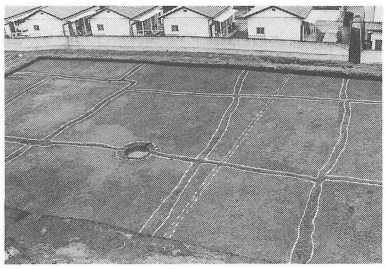
付近の標高は約94ｍで、北西から南東にかけて緩やかに傾斜している。また、周辺には日高遺跡をはじめ勝呂遺跡、前箱田遺跡、西島遺跡等の水田址を中心とした遺跡が数多く存在する。

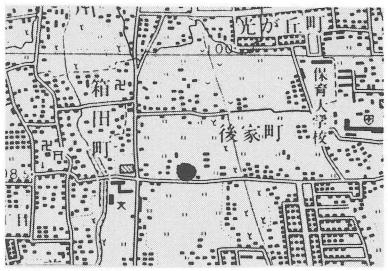
縄文時代～古墳時代　なし

奈良・平安時代　1108年の浅間山噴火に伴う軽石層（As－B軽石層）に覆われた平安時代末期の水田址がほぼ調査区の全面から検出された。水田址の検出数は23枚であるが、調査範囲が狭小なため、四隅を畦畔で囲まれた完全な形の水田は２枚のみであった。

水田の形状は、総じて東西長10ｍ前後、南北長15ｍ前後で、ほぼ南北に長い長方形を呈している。水田面上はやや凹凸が目立ったものの、人や牛馬の足跡と推定される部分も確認され、なかには歩行の道筋をたどれるものもある。畦畔の規模は、下幅40～60㎝、水田面からの高さ（厚さ）２～８㎝を測り、断面形はカマボコ状を呈している。また、各畦畔の走行ラインは、南北畦畔はほぼ真北を指し、東西畦畔はこれと直交するラインを維持している。また、本遺跡の南方約１㎞に所在する高崎市の西島遺跡では、条里制施行の指標とされる坪境畦畔とその交点（条里交点）が検出されており、本遺跡の水田址も、西島を中心とした条里に含まれる可能性が高い。

8．五反田Ⅱ遺跡





事業名　民間開発（店舗新築）
所在地　前橋市箱田町字五反田992－１
調査期間　平成６年11月10日～12月６日
担当者　狩野吉弘
調査面積　1,400㎡

調査の経緯　株式会社フジマートの前橋箱田店建設に先立ち、平成６年４月27日に確認調査を実施したところ、店舗建設部分全域から平安時代の水田址が検出された。フジマートと前橋市教育委員会の協議・調整の結果、店舗建設部分における発掘調査の実施が確定した。

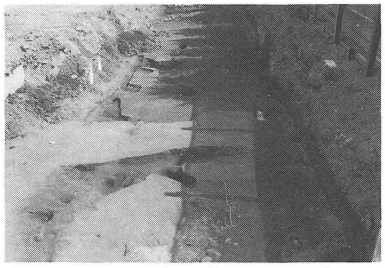
立地　五反田Ⅱ遺跡は前橋市街から利根川を挟んで南面に約３㎞の箱田町に所在する。本遺跡や立地する前橋台地上は、古代から水田が営まれていた地域であり、群馬県における水田址研究の端緒ともなった高崎市域の日高遺跡は、滝川と染谷川を隔てて、本遺跡から西方約2.3㎞にある。また、本遺跡と同時期の平安時代末期の水田址遺跡としては、五反田遺跡、村前遺跡、前箱田遺跡、勝呂遺跡、柳橋遺跡等がある。

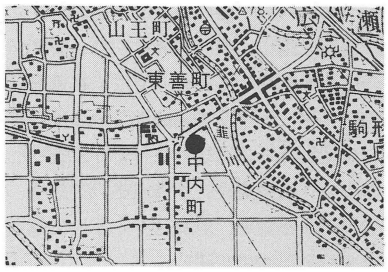
縄文時代～古墳時代　なし

奈良・平安時代　調査の結果、1108年の浅間山噴火に伴う軽石層（As－B軽石層）に覆われた平安時代末期の水田14枚を検出した。本遺跡では、表土から水田遺構面まで約25～40㎝と浅く、遺構の保存状況が危惧されたが、水田址、畦畔とも比較的良好な形で検出することができた。ただし、調査区一帯が水捌けの悪い箇所にあるため、表土掘削の後、調査区の南半分は湧水により冠水し、その後の調査は少なからず制約を受けた。調査区の計測可能な水田の形状は、おおむね東西に長軸をもつ横長方形を基本とし、１枚の水田面積は約110㎡～140㎡の範囲で押さえられる。これは、本遺跡の周辺で、過去に調査された同時期の水田址と比較すると、小規模な部類に入り、水田の形状にも類似性は認められない。

また、本遺跡は条里制に関しては、周辺の現地表に見られる地割りの状況や近隣に残る「市之坪」という字名からすると、条里制が施行されていたと推察できる場所にある。

9．前田Ⅲ遺跡





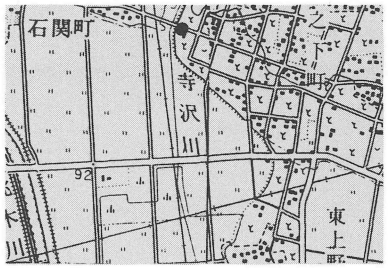
事業名　民間開発（事務所増築）
所在地　前橋市東善町
調査期間　平成７年２月23日～28日
担当者　園部守央・伊藤　良
調査面積　174㎡

調査の経緯　ＮＴＴ移動通信網㈱の上記事業に先立ち、開発者の現物貸与を受けて前橋市教育委員会が発掘調査を行ったものである。平成２年の新築時には隣接地を調査している。

立地　本遺跡は市庁舎のある市中心部から南東約８㎞の東善町で主要地方道高崎・駒形線と同藤岡・大胡線の交差点東に位置する。10世紀前後の竪穴住居址は14軒が検出された前田Ⅱ遺跡に隣接しており、北には朝倉町から広瀬町、山王町に及び一大古墳群がある。また、平成２年度に調査された住居址33軒が検出された前田遺跡は南東200ｍに位置している。

遺構　９世紀竪穴住居址２軒
遺物　土師器甕・坏

10．堀之下女堀遺跡



事業名　上水道付設替え事業
所在地　前橋市堀之下町320番地地先
担当者　井野誠一・伊藤　良（前橋市教育委員会文化財保護課）
調査面積　488.6㎡

調査の経緯　平成６年６月１日に調査地周辺での土木工事実施の連絡を受ける。工事予定地が、女堀を横断すると想定されたため発掘調査を実施することとなった。工事が女堀にかかる部分がわずかであるため緊急調査として文化財保護課が実施することとなった。

発掘調査は、平成６年７月１日から27日まで実施された。

立地　女堀遺跡は古代から中世にかけての用水遺構である。旧利根川から取水を図ったものとされ、石関町が取水口で、佐波郡東村が終末地点と考えられている。

前橋市内と赤堀町で、一部が国指定の史跡になり保存されている。また、前橋市内でも土地改良等で発掘調査がなされた地点があり、多くの資料が得られている。

調査地は、取水口と考えられる石関町のすぐ西で、調査地の西には現在でも地割りに女堀の跡が明瞭に確認され、その延長線上に位置している。

南は旧利根川の跡で高低差８～９ｍの低地になり、その北に連なる旧利根川崖上に位置する。女堀は遺跡地周辺では崖縁辺部に添って東に延びている。

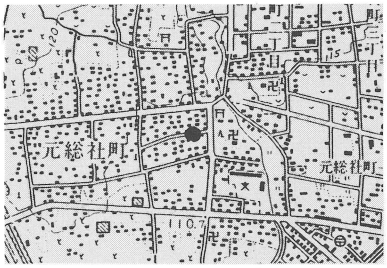
調査の概要　調査地の東から調査を進めたが、女堀以外に遺構・遺物の検出は見られなかった。

女堀は、調査区の西端の、堀之下橋の東21.2ｍ地点で、堀の東の落ち込みが検出された。そこから調査区の西端の堀之下橋までは女堀の埋土が確認されている。調査の範囲内では女堀の西の落ち込みは確認されなかった。

検出された遺構から見ると、女堀は調査以前に想定された地点を通過していることが確認された。

遺物の検出は見られなかった。

11. 蒼海城Ⅰ遺跡



事業名　下水道築造工事
所在地　前橋市元総社町2681－6番地先
調査期間　平成６年８月１日～12月12日
担当者　井野誠一・伊藤　良（前橋市教育委員会文化財保護課）
調査面積　494.4㎡

調査の経緯　平成６年６月１日に事業実施についての連絡を受ける。事業実施予定地が、中世の城跡「蒼海城」の範囲に含まれることのほか、この地区が想定「国府」域に当たり、事業実施前に発掘調査が必要となり、協議を行った。

事業が、下水道の敷築造という範囲の限られたものであったため、事業実施に合わせて調査を継続的に実施することとなった。調査は８月１日より12月12日まで、断続的に実施した。

調査については、緊急調査として文化財保護課で行った。

立地　調査地は、中世の城跡蒼海城の堀に当たる。この城は古代の「国府」所在地の跡に作られたとされ、現在堀の跡が道路として残されている。現在でも宅地よりも一段低いところが多い。

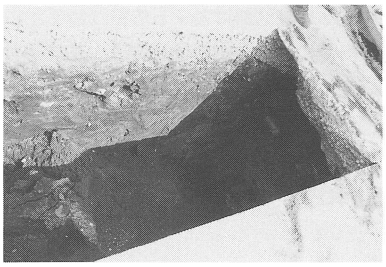
堀の全体の縄張は、東西に長い長方形を呈し、それが方形に区画されている。東の南北の区画の堀は、総社神社の西の南北の道であるとされており、今回の調査の対象地に当たる。

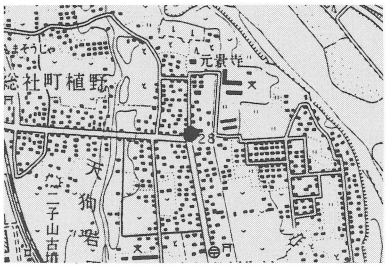
この長方形の区画は一説に国府の区画を継承したものと言われ、ほぼ同じ地域を共有しているのは確実であるが、その区画が共通かどうかは判明していない。

調査の概要　調査は総社神社より西に伸びる東西調査区と神社の西の南北調査区に分かれる。東西調査区は蒼海城の堀が想定され、ほとんどの調査区で堀の土層が確認された。しかし東側約20ｍは自然堆積の状況が確認された。南北の調査区では全域で自然堆積の状況が確認された。

この結果から見ると、総社神社西の南北の道（城の堀と想定）は道の南半が旧馬場であったことも含めると、総社神社の造営整備に伴って作られた道であり、蒼海城の堀はこの道の西に南北に通っている可能性がある。

12. 元景寺経塚遺跡





事業名　下水道築造工事
所在地　前橋市総社町総社1443番地先
調査期間　平成６年７月29日～８月17日
担当者　井野誠一・伊藤　良（前橋市教育委員会文化財保護課）
調査面積　130.3㎡

調査の経緯　平成６年６月１日に調査地周辺での土木工事の連絡を受ける。工事予定地が遺跡を南北に横断するため、発掘調査を実施することになる。緊急調査として文化財保護課で発掘調査を担当することとなる。平成６年６月３日に発掘調査依頼が提出される。

立地　調査地は平成４年12月に緊急発掘調査が実施された「元景寺経塚遺跡」に接しており、経塚の遺構・遺物が検出される可能性があった。また、調査地は総社城の城内に当たり、堀の遺構が検出される可能性もあった。

調査の概要　発掘調査では経塚の遺構・遺物は検出されなかったが、総社城の堀及び元景寺参道の堀にかかわる石垣の基礎が確認された。

堀の南と北の落ち込みが確認され、この地点での堀の幅が検出面で8.5ｍで、深さは３ｍ以上。形状は上段は広がり、中段より下はせばまり。薬研堀と想定された。

また、堀の埋土に径60～70㎝の川原石が検出されており、元景寺参道脇に現存する石垣の基礎の石と考えられる。

この堀は従来の山崎一氏の総社城の想定の堀にほぼ添っており、総社城の堀と考えられる。石垣はその堀をまたぐ橋の関係した石垣とも考えられる。橋に関係する遺構は検出されなかった。遺物の検出も見られなかった。

13. 桂萱58号墳

事業名　道路改修工事
所在地　前橋市荻窪町963番地
調査期間　平成６年11月14日～11月16日
担当者　井野誠一・伊藤　良（前橋市教育委員会文化財保護課）
調査面積　10.0㎡

調査の経緯　平成５年７月７日に調査地における工事について連絡を受ける。この古墳は一部が道路建設に伴い削平を受けており、削平部分に工事が実施される。道路の安全確保の上で保存が困難であったために、緊急調査として文化財保護課が実施することとなった。発掘調査は平成６年11月14日から11月16日まで行われた。掘削部の調査の他に古墳の平面測量を実施した。

立地　調査地は赤城山南麓が小河川で侵食され、でき上がった尾根状の丘の上に位置する。周辺はいくつかの小円墳が所在していたが、現在形をとどめるものは少ない。市内でも標高の高い地点に位置する古墳である。

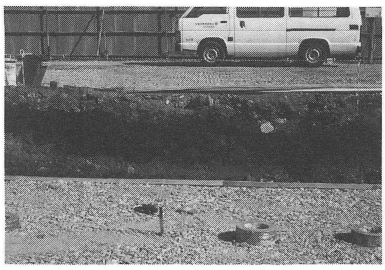
古墳についての資料は少なく、すでに明治期に石室（横穴式と想定）は開口され、石は一部が渋川から大胡への道の川の橋に利用され、その他は家の用材として使われたと伝えられる。副葬品は刀があったと言われ、神社にしばらく掲げてあったが現在所在は不明である。現在石室にあたる部分は落ち込んで窪地になっており、伝承に一致する。

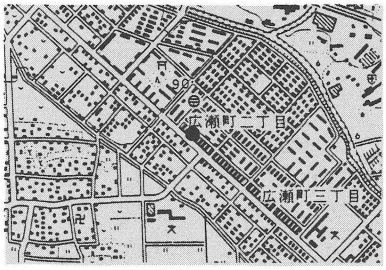
調査の概要　調査の結果、桂萱58号墳は円墳で、現状の墳丘の径21ｍ、高さ2.5ｍを測る。墳丘には葺き石が葺かれていた。

はにわは検出されなかった。葺き石は早くに一部崩落しており、堀のなかに堆積していた。堀の上部にはＢ軽石が堆積しており、この時期にほぼ埋まったことがわかる。堀は検出地点で幅4.5ｍ、深さ1.5ｍを測る。堀を含めた径は30ｍを測る。

古墳期末期の群集墳と考えられる。

14. 鶴巻遺跡





事業名　公営住宅建替工事
所在地　前橋市広瀬町二丁目14－１外
調査期間　平成７年１月30日
担当者　井野誠一・伊藤　良（前橋市教育委員会文化財保護課）
調査面積　2,625.05㎡

調査の経緯　平成７年１月27日に遺跡地における土木工事実施についての連絡を受ける。遺跡が、すでに既設の建物建設で削平を受けており、残存状況が不良のため文化財保護課で緊急調査として発掘調査を実施することとなった。発掘調査は事業実施との関係で１月30日に実施した。

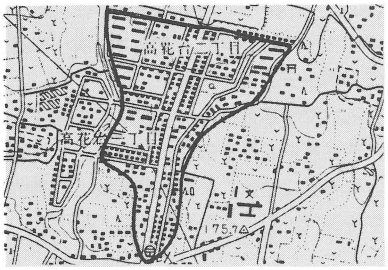
立地　調査地は広瀬古墳群の中央部に位置し、周辺は古墳の密集地である。周辺に所在した多くの古墳はすでに失われているが、その後の再開発に当たっては、その確認調査を続けている。過去の確認調査では、古墳の所在想定地での確認は削平が多く確認はされていない。鶴巻遺跡の南東の木之宮遺跡では古墳の堀が確認されている。住居跡も、古墳群の縁辺部でわずかな確認が見られる。

調査の状況　調査地は、低層の市営住宅が建っていたところで、高層住宅への立て替え工事に伴う発掘調査として実施された。すでに、旧建物の基礎により掘削され、住居の一部が検出されたのみである。

検出遺構は、古墳時代の住居跡が３軒で、東中央部の住居跡はカマドの跡がわずかに残されていた。北側の住居跡は、基礎掘削の断面に一部が認められた。

西側には溝状の落ち込みも見られたが、一部で詳細は不明である。西側にはＢ軽石が堆積しているのが認められた。

15. 芳賀団地遺跡整理・遺跡台帳整備事業



事業名　芳賀団地遺跡整理・遺跡台帳整備事業

調査期間　平成６年４月１日～平成７年３月31日

担当者　井野誠一・伊藤　良（前橋市教育委員会文化財保護課）

整理の経緯と状況

芳賀団地遺跡整理事業　昭和48年から昭和55年まで発掘調査を実施した芳賀団地遺跡の整理作業を実施している。

調査報告書は６巻を予定し、現在東部団地遺跡３巻、西部団地遺跡１巻、北部団地遺跡２巻予定のうち１巻の刊行が行われている。

平成６年度は、第６巻（北部団地遺跡―縄文・中近世編）の整理作業を実施した。

北部団地遺跡は縄文時代の住居跡34軒と配石17その他の遺構が検出されている。住居の時代は中期を主とし、敷石が４軒含まれている。

遺物は、テン箱50箱分が出土している。６年度は整理・接合の作業を実施し、ほぼ終了した。７年度は遺物の実測・図版作成等を行う予定である。

遺構については、基礎整理が終了し、７年度には原稿執筆・図版作成・報告書刊行を行う予定である。

遺跡台帳整備事業　遺跡台帳整理事業では、年間を通じて各種確認調査及び発掘調査の資料を元にして遺跡台帳を作成している。また、その資料を元にして、各種開発への問い合わせに対応している。

更に、市内で出土した重要遺物については、市役所１階のショーケースに随時展示している。６年度は天神山古墳鏡復製品、中二子古墳はにわ、荒砥青柳Ⅰ遺跡土器等を展示した。

また、市内小学校に出土遺物の貸し出しも行っている。

ほかに、埋蔵文化財発掘調査の成果をパンフレットにまとめ、市民に配布している。６年度は大屋敷遺跡の遺物を中心に作成した。

遺跡測量委託では、６年度は文珠山・阿弥陀山古墳の測量を実施した。この資料はその後の周辺での確認調査の際に、基礎資料として活用した。

16. 市内遺跡調査事業

事業名　埋蔵文化財発掘調査事業（市内遺跡調査事業）

所在地　市内37カ所

調査期間　平成６年４月６日～平成７年３月31日

担当者　井野誠一・伊藤　良（前橋市教育委員会文化財保護課）

調査面積　4,064.6㎡

調査の経緯と概要　平成６年度は37件の確認調査を実施した。そのうちで17か所で遺跡が確認された。

17遺跡のうちで、４遺跡が保存協議書を締結して現状保存となり、３遺跡が調査実施、10遺跡が保存協議中である。

保存　総社町窪道遺跡は住居跡が検出されたが、現状保存されることになった。総社町遠見山古墳は古墳の堀が検出されたが、現状で保存されることになった。大渡町の王山古墳は、王山古墳の基礎面が確認されたが、公園用地として保存されることになった。山王町の文珠山古墳は古墳の堀が検出されたが、設計変更で保存されることになった。

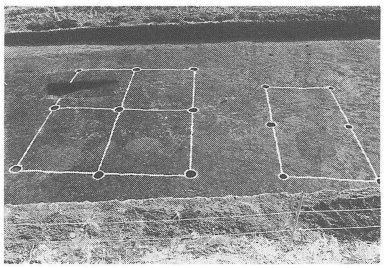
調査　二之宮町の荒砥青柳Ⅱ遺跡は、住居跡が検出され、平成６年７～８月にかけて発掘調査が行われた。古墳時代を中心とする遺構及び良好な遺物が多数出土した。

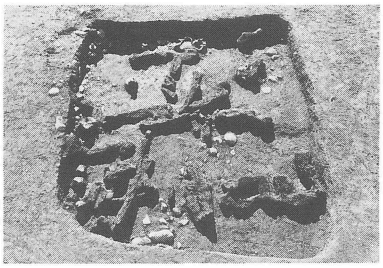
箱田町の五反田Ⅱ遺跡は平安時代の水田が検出され、平成６年11月から12月にかけて発掘調査が行われた。

勝沢町の西曲輪遺跡は、住居跡が検出されたが、平成７年２月に発掘調査を実施した。古墳時代前期の住居を検出した。焼失住居。

協議　鶴光路町の西田遺跡は、平安時代の水田が検出され、現在保存協議中である。元総社町の早道遺跡は土坑・堀が検出され、現在保存協議中である。富田町の木舟遺跡は縄文時代の土坑が検出され、現在保存協議中である。鶴光路町の西田遺跡は、前述の西田遺跡に含まれるもので、同じ平安時代の水田が検出されている。前箱田町の稲荷遺跡は、平安時代の水田が検出され、現在保存協議中である。西大室町の内堀遺跡は縄文時代の土坑が検出され、現在保存協議中である。元総社町の屋敷Ⅱ遺跡は古墳～平安時代の住居跡が多数検出され、現在保存協議中である。櫛島町の尼ケ橋遺跡は住居跡が多数重複して検出され、現在保存協議中である。総社町の稲荷塚大道北遺跡は古墳～平安時代の住居跡が検出され、現在保存協議中である。山王町の文珠山古墳は、古墳の堀及び葺石が検出され、現在保存協議中である。

17. 調査会調査





前橋市内の開発に先立つ埋蔵文化財発掘調査地で、県教育委員会を中心として調査会を設立し、市教育委員会も役員として参加し、発掘調査を行っているもの。市内の県事業にかかわるもので、発掘調査は調査機関に委託して実施している。

事務手続きの一部と、遺物の管理は市教育委員会で担当。

平成５年度

元総社稲葉遺跡（群馬県市町村会館遺跡調査会）平成５年９月１日から11月30日。3,000㎡。縄文時代土坑３、古墳時代溝１、奈良・平安時代　住居跡・土坑・井戸・製鉄炉・溝・道路・水田33、中世溝１と遺物テン箱10が出土。

青梨子金子境遺跡（県央第一水道遺跡調査会）平成５年12月６日から平成６年１月31日。2.506㎡。奈良・平安時代　住居跡14・溝１・土坑７・円形周溝遺跡１　その他　さく状遺構が検出、遺物は土器がテン箱５箱。

西善鍛冶屋遺跡（西善団地遺跡調査会）平成６年２月14日から平成６年３月31日。1,160㎡。平安時代　住居跡20・掘立柱建物３・土坑30・溝17条・配石・集石・その他　うね状遺構が検出。遺物は平安時代土器テン箱10箱が出土。

平成６年度

県立文書館遺跡（県立文書館遺跡）平成６年７月20日から平成６年８月19日。743㎡。天川二子山古墳周堀、中世　溝４・土坑１が検出。遺物は土器・石器がテン箱１箱出土した。

前橋城三ノ丸遺跡（前橋地方・家庭裁判所遺跡調査会）平成６年９月23日から11月30日。650㎡。古墳～平安時代溝１、平安時代河川１、近世溝３、近世井戸２、時期不明遺構57が検出。遺物、奈良・平安時代土器、近世陶磁器片等テン箱20箱。

石関西梁瀬遺跡（石関西梁瀬遺跡調査会）平成６年12月８日から平成７年２月28日。5,200㎡。古墳～平安時代住居跡19、掘立柱建物２、土坑が検出。遺物は古墳～平安時代土器がテン箱20箱出土。

西片貝源田島遺跡（石関西梁瀬遺跡調査会）平成６年12月８日から平成７年２月28日。平安時代住居。火葬墓壙が検出。遺物は平安時代土器・人骨がテン箱１箱出土。

6　大室公園史跡整備事業

(1)　大室公園史跡整備委員会

平成６年度は、大室公園史跡整備委員会を開催すると共に、委員会の下で、より専門的、実務的な業務を担当する古墳整備部会（中二子古墳範囲確認調査・前二子古墳石室安定度調査・大室４古墳整備基本計画策定）、民家変遷部会（古代住居部材購入・復原資料収集）、資料館部会（展示に関する基本構想策定）を、それぞれ３～４回開催し、事業を進めて来ました。

各部会の詳しい事業内容については別記しましたが、その他に、部会、部会長会、委員会等の事業の進捗にあわせて、事務局の打ち合わせも９回開きました。

○平成６年度大室公園史跡整備委員会の経緯

・平６．９．８～９　文化庁調査官事前指導
・７．２．24　平成６年度大室公園史跡整備委員会開催（通算第８回目）

(2)　古墳整備部会

史跡整備のため基礎資料である古墳の規模、形状等を明らかにするため、平成５年度に引き続き、国指定史跡中二子古墳の範囲確認調査を行いました。

また、将来の公開に備え、前二子古墳石室の安定度調査を実施しました。後二子古墳石室の安定度調査は平成７年度に実施する予定です。

さらに、今年度は、これら諸調査の結果をもとに、大室４古墳の整備について、基本設計の骨子となる基本計画を策定しました。

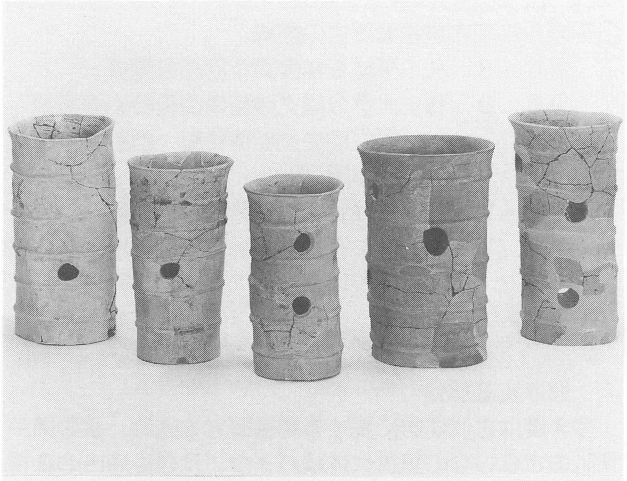
○中二子古墳範囲確認調査の結果

・墳丘は上下２段で構成され、その規模は、全長111ｍ、前方部幅79ｍ、後円部直径66ｍ、高さ15ｍである。
・周堀は二重になっており、墳丘、内堀、中堤、外堀を含めた古墳全域の大きさは、全長170ｍ、全幅138ｍである。
・葺石は下段墳丘斜面、上段墳丘斜面を取り巻いて葺かれている他、北側中堤の内側にも施されている。

中二子古墳

・中堤の内外、基壇面、墳頂部にはそれぞれ円筒埴輪が巡らされており、さらに南側中堤を中心に、外縁部に盾持人埴輪が約２ｍ間隔で設置されていた（盾持人埴輪については、トレンチ調査によって明らかになったが、すでに南側中堤が崩されてしまっているため、大部分は現存しない。）
・古墳は６世紀初頭頃に降下した榛名山の火山灰層の上に造られている。
・出土遺物等から判断し、古墳構築時期は６世紀前半と推定される。

以上の事が判明しました。



○前二子古墳石室安定度調査の結果

目視による石積みの表面状態の観察、ファイバースコープによる石積みの裏込め状態の観察、及び、天井石の曲げ強度、基礎地盤の支持力、石材の圧縮強度等の力学的解析を通して、次のような結論が導き出されました。

墳丘盛土などの上からの荷重によって石室全体が崩壊することは現状では考えられないが、ある一部の壁石が抜け落ちたり、石と石の噛み合わせが外れて石室の一部が崩壊するといった危険性が懸念される。したがって、石室内の一般公開については、今後も慎重に検討を重ねていく必要がある。

○大室４古墳整備基本計画（前二子部分）

ア　前二子古墳　現状保存を基本としながらも、積極的に利活用をはかる古墳。	
墳　丘	・現時点での欠落部分を補修する。 ・構築当時の形ではなく経年変化を考慮した形で二段築成が分かるようにする。 ・樹木は間伐し墳頂から中二子が見えるようにする。 ・必要に応じて低木を植える。 ・くびれ部などの目立たない場所に擬木階段等で墳頂への遊歩施設を設置。
石　室	・安全を確保したうえで羨道部分をかさ上げし、玄室の手前まで入れる。 ・玄室も若干埋めて敷石と遺物の複製を並べる。
周　堀	・想定範囲すべてを整備対象とする。 ・表示方法は芝張り、植栽、くぼみをつける等が考えられるが今後検討を重ねていく。 ・舗装、飛び石等で園路をつくる。
その他	・外堤及び外周溝の表示方法は今後検討。（芝張り、植栽等。指定範囲外は復原する。）

○平成６年度古墳整備部会の経緯

・平６．８．９…平成６年度第１回部会開催
・平６．９．16…大室公園史跡整備委員会副委員長　国立歴史民俗博物館　白石太一郎教授指導
・平６．10．３…平成６年度第２回部会開催
・平６．10．16…中二子古墳範囲確認調査に関する現地説明会
・平７．１．31…平成６年度第３回部会開催

⑶　民家変遷部会

今年度は古代住居に関する調査研究を進め、長野県戸倉町のさらしなの里古代体験パーク、及び更埴市の森将軍塚古墳の丘の下に復原された古代住居を視察し情報収集するとともに、赤城型民家復原に向けて屋根の部材となる萱の購入を行いました。

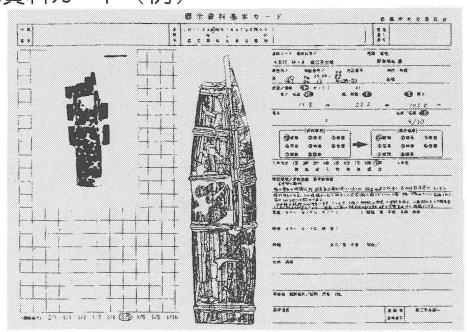
○平成６年度民家変遷部会の経緯

・平６．４．27…平成６年度第１回部会開催
・平６．６．15…平成６年度第２回部会開催（さらしなの里、森将軍塚古墳下に復原された古代住居視察）
・平７．１．19…平成６年度第３回部会開催

⑷　資料館部会

資料館建設に向けて、前年度に引き続き関連資料の収集及び調査研究を行い、その中で出土遺物を中心とした展示資料カード作成を実施しました。さらに、これまでの調査研究の成果を踏まえ、資料館の展示に関する基本構想を策定しました。

○展示資料カード（例）



○大室古墳資料館展示基本構想（抜粋）

〈常設展示〉

①展示の基本方針

・大室公園内の４基の国指定古墳を中心に古墳時代に絞って展示する。
・市民にわかりやすく、また親しみやすい資料館とするために、実物資料とレプリカ（複製品）・模型・図表などを、ゆったりとした空間の中に効果的に展示する。
・だれもが楽しみながら古墳時代や地域の歴史の発展の様子を学習できるように、映像・コンピュータなどを利用し、科学的な視点からとらえた展示手法や体験学習的な設定などを工夫する。

②展示の構成

５つのコーナーによる構成

古代への扉を開く

主　題　大室古墳群をとりまく風土
ねらい　大室古墳群をとりまく赤城山南麓の風土を明らかにすることを通して、入館者を古代へといざなう。

古墳の囁きを聞く

主　題　大室古墳群を探る
ねらい　大室公園内の古墳の特徴・関係・変遷等を探る。

古墳の不思議をとく

主　題　大室古墳群とその文化
ねらい　古墳に関するさまざまな不思議を、コンピュータ等を使用して科学的に明らかにしたり、公園内から出土した珍しい遺物を手がかりに推理したりすることを通して解き明かす。

６世紀の大室を歩く

主　題　四古墳と大室地域の繁栄
ねらい　６世紀、大室の地に一大勢力が誕生した背景を明らかにする。

大室の歴史を見つめた人々

主　題　アーネスト・サトウと前二子古墳
ねらい　アーネスト・サトウは、なぜ大室を訪れたかのか、そして大室はどのように世界に紹介されたのかを知る。

○平成６年度資料館部会の経緯

・平６．６．28…平成６年度第１回部会開催
・平６．９．22…平成６年度第２回部会開催（松戸市立博物館視察）
・平６．12．７…平成６年度第３回部会開催
・平７．１．23…平成６年度第４回部会開催

あ と が き

文化財や地域の歴史に対する市民の皆様の関心の高まりに応じて、新聞やテレビ等で大きく取り上げられることが多くなってきております。前橋市でも総社資料館整備や大室公園整備が進み、新聞やテレビで大きく報道されました。

文化財保護課では前橋市民の文化向上に役だてようと、職員が日夜業務にはげんでいます。その成果をこの報告書で市民の皆様へ報告しております。

この報告書は市民の皆様の文化財保護への案内になるものだと思います。ぜひお読みいただいて感想をお寄せください。

そういった意見も私たちにとっては、励みであり、反省材料としてより市民の立場にたった行政を行う力になると考えております。

平成７年12月

文化財保護課長

本　山　　卓

平成６年度

前橋市文化財調査委員

近藤　義雄

丸山　知良

松島　栄治

阿久津宗二

梅沢　重昭

文化財保護課職員

文化財保護課長	本山　卓
文化財保護係長	宮下　寛
埋蔵文化財係長	駒倉　秀一
主査	関口　孝
〃	園部　守央
〃	井野　修二
主任	山口　宗男
〃	井野　誠一
〃	前原　豊
〃	真塩　欣一
〃	斎藤　仁志
〃	伊藤　良
〃	戸所　慎策
〃	狩野　吉弘
〃	新井　真典
〃	坂口　好孝
〃	林　信也
〃	大山　和久
専門員	阿久津宗二

平成６年度文化財調査報告書第25集

平成８年３月15日印刷
平成８年３月20日発行
発　行　前橋市教育委員会文化財保護課
　　前橋市上泉町664－４
印　刷　上毎印刷工業株式会社